

スポーツ柔整科

分野	教育内容	授 業 科 目	区分	規程	カリ	単位	必修 選択	時間	1 年次		2 年次		3 年次	
									前	後	前	後	前	後
基礎分野	科学的思考の 基盤人間と生活	コミュニケーション理論	演習	14	14	2	必修	30	30					
		情報リテラシー	演習			2	必修	30		30				
		生物学	講義			2	必修	30	30					
		栄養学	講義			2	必修	30	30					
		スポーツ栄養学	講義			2	必修	30		30				
		医用英語	講義			2	必修	30	30					
		スポーツコンディショニング論	講義			2	必修	30		30				
専門基礎分野	人体の構造 と機能	解剖学Ⅰ	講義	15	16	2	必修	60	30	30				
		解剖学Ⅱ（運動器：骨格系, 筋系）	講義			2	必修	60	30	30				
		解剖学Ⅲ	講義			2	必修	60			30	30		
		生理学Ⅰ	講義			2	必修	60	30	30				
		生理学Ⅱ	講義			2	必修	60			30	30		
		解剖生理学	講義			2	必修	60					30	30
		運動学	講義			2	必修	60			30	30		
		高齢者の生理学的特徴・変化	講義			1	必修	30					30	
		競技者の生理学的特徴・変化	講義			1	必修	30						30
	疾病と傷害	一般臨床医学Ⅰ	講義	11	13	2	必修	60			30	30		
		一般臨床医学Ⅱ（高齢者）	講義			2	必修	30					30	
		病理学	講義			2	必修	60			30	30		
		外科学概論	講義			2	必修	30				30		
		整形外科学	講義			2	必修	60			30	30		
		リハビリテーション医学Ⅰ	講義			2	必修	30			30			
		リハビリテーション医学Ⅱ（高齢者の運動機能維持・回復）	講義			1	必修	30				30		
	柔道整復術の適応	柔道整復術の適応	講義	2	2	2	必修	30					30	
	保健医療福祉と 柔道整復の理念	関係法規	講義	8	8	1	必修	30			30			
		衛生学・公衆衛生学	講義			2	必修	60			30	30		
		職業倫理	講義			1	必修	30						30
		柔道Ⅰ	実技			1	必修	30		30				
		柔道Ⅱ	実技			1	必修	30			30			
		柔道Ⅲ	実技			1	必修	30				30		
		柔道Ⅳ	実技			1	必修	30					30	
	社会保障制度	社会保障制度	講義	1	1	1	必修	30		30				
専門分野	基礎柔道整復学	基礎柔道整復学Ⅰ	講義	10	10	2	必修	60	30	30				
		基礎柔道整復学Ⅱ	講義			2	必修	60	30	30				
		基礎柔道整復学Ⅲ	講義			2	必修	60	30	30				
		基礎柔道整復学Ⅳ	講義			2	必修	60	30	30				
		基礎柔道整復学Ⅴ（外傷保存療法の経過及び治癒の判定）	講義			2	必修	60			30	30		
	臨床柔道整復学	臨床柔道整復学Ⅰ	講義	17	18	2	必修	60	30	30				
		臨床柔道整復学Ⅱ	講義			2	必修	60			30	30		
		臨床柔道整復学Ⅲ	講義			2	必修	60			30	30		
		臨床柔道整復学Ⅳ	講義			2	必修	60					30	30
		臨床柔道整復学Ⅴ	講義			2	必修	60					30	30
		臨床柔道整復学Ⅵ（物理療法機器の取扱い）	講義			2	必修	60					30	30
		臨床柔道整復学Ⅶ（柔道整復師の臨床的判定・医用画像）	講義			2	必修	60					30	30
		臨床柔道整復学Ⅷ	講義			2	必修	60					30	30
		臨床柔道整復学Ⅸ	講義			2	必修	60					30	30
	柔道整復実技	柔道整復実技Ⅰ	実技	17	20	2	必修	60	30	30				
		柔道整復実技Ⅱ	実技			2	必修	60	30	30				
		柔道整復実技Ⅲ	実技			2	必修	60	30	30				
		柔道整復実技Ⅳ（高齢者の外傷予防）	実技			1	必修	30			30			
		柔道整復実技Ⅴ（競技者の外傷予防）	実技			1	必修	30				30		
		柔道整復実技Ⅵ	実技			2	必修	60			30	30		
		柔道整復実技Ⅶ	実技			2	必修	60			30	30		
		柔道整復実技Ⅷ	実技			2	必修	60					30	30
		柔道整復実技Ⅸ	実技			2	必修	60					30	30
		柔道整復実技Ⅹ	実技			2	必修	60					30	30
		柔道整復実技Ⅺ	実技			2	必修	60					30	30
臨床実習	臨床実習	臨床実習Ⅰ	実習	4	4	1	必修	45		45				
		臨床実習Ⅱ	実習			1	必修	45			45			
		臨床実習Ⅲ	実習			1	必修	45				45		
		臨床実習Ⅳ	実習			1	必修	45					45	
				99	106	106		2910	450 975	525	525 1050	525	495 885	390

シラバス（授業計画書）

科目名(コミュニケーション理論)

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1. 授業の内容

相手との会話を成立させるためには、まず、正しい日本語を正しい表現力で伝えられなければならない。そのためには、日本語の知識、その活用が重要になってくる。授業では日本語の語彙力の向上、語彙力に基づく書く力の向上、そしてコミュニケーションの能力を高めることが内容となってくる。

2. 到達目標

コミュニケーションの要は「相手（患者）の心に自分の心を沿わせてみて、相手の心情を察し、心の機微に触れること」である。いかに、相手の話を聞いて、適切に対応できるか。その基本となる会話力を身につけることを目標とする。

3. 授業の方法

考える力＝論理力、理解力、説明力を育てるために、日本語力向上のためテキスト演習、スピーチ力・ディベート力向上のためのグループワークを行う。

10分間テストの活用

4. 成績評価方法・基準

定期試験 90点+平常点 10点=100点（*試験は作文が20%を占める。平常点は出席、授業態度、レポート点で評価する）

5. 評価の際の特記事項

授業参加の姿勢は90分全ての段階で評価する。遅刻・欠席は減点する。

6. 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

90分の授業内で学習内容を習得できなかった学習課題は各自自宅学習で習熟理解しておくこと。

基本熟語・難解語等は学習課題として適宜自宅学習として配布する。

7. 使用教材・教具

「文章カステップ」（文章検3級対応） 日本漢字能力検定協会

「1日10分言語力ドリル」（聞く話す）第一学習社

8. 学生へのメッセージ

コミュニケーション能力は、様々な場面で必要とされる。特に、医療関係に従事する者としては、不可欠な要素と思われる。そのことをよく自覚して、医療者となるように、日ごろより努力を惜しまないで欲しい。

私がこれまでに大事にしてきた言葉は「人生にリハーサルはなし」。その意は、人生はいつも本番で真剣勝負の毎日が待っているのである。

9. 教員氏名(出口 彰)

所 属(こころ医療福祉専門学校佐世保校 非常勤講師)

10. 特記事項

通常教員による授業科目

科目名(コミュニケーション理論)

回数	授業内容	言語力ドリル
1	講座概論 医療コミュニケーションの目的 ○部首 ○四字熟語 (宿題)	
2	コミュニケーションに必要な語彙力 (1) ○四字熟語 (宿題)	(1)、(2)、(3)
3	コミュニケーションに必要な語彙力 (2) ○慣用句 (宿題)	(4)、(5)
4	コミュニケーションに必要な資料分析力 (3) ○慣用句 (宿題)	(6)、(7)、(8)
5	コミュニケーションに必要な文章読解力 (4) ○ことわざ (宿題)	
6	コミュニケーションに必要な文章読解力 (5) ○ことわざ (宿題)	(9)、(10)
7	コミュニケーションに必要な常識力 (6) ○故事成句 (宿題)	(11)
8	コミュニケーションに必要な常識力 (7) ○故事成句 (宿題)	
9	○作文の要点「日本の社会で気になること」 (宿題) ○悪文訂正 (宿題) ○ドリル手紙文	
10	○作文回収「日本の社会で気になること」 ○敬語 (宿題) ○意見を話す力	(12)、(13)、(14)
11	○作文添削返却 ○ドライロック読書 (下書きメモ 人物評価 宿題)	(15) (16)
12	○ドライロック意見発表 ○宿題確認 ○文章力 P50～P60 ○問題一式提出 ○手紙文8時間考えて)	(17)、(18)
13	○「ドライロック」ディベート演習 (2組)	
14	○自己紹介プレゼンテーション ○テスト範囲確認 ○ドリル演習	
15	テスト返却、解説	

シラバス（授業計画書）

科目名（ 情報リテラシー ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1 年

1 授業の内容

授業の前半は、プレゼンテーションなどで使用される「PowerPoint」を使用し、課題を設定した資料作成（社会人として習得しておくべき、パワーポイント）の制作スキルを学びます。また、後半では、Word での表やグラフ作成の基礎と、Excel の連携についても学習します。

2 到達目標

アプリケーションの機能概要（操作）の理解と画面操作のみではなく、ショートカットキーの同時使用で、作業の効率化が出来ます。また、プレゼンテーションや報告書の作成スキルを習得します。

3 授業の方法

講師用パソコンをプロジェクターに写し、操作方法を同時に行いながら修得します。又、各章毎に練習問題を実施し、回答を行いながら修得します。

4 成績評価方法・基準

定期試験 → 70%

授業態度 → 30%

5 評価の際の特記事項

授業態度は、授業や課題への取り組みや出欠を含めて総合的に判断いたします。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って講義を行います。また、授業の空き時間で「PC が空いている時など、事前に教科書の予習・復習をしておくこと。

7 使用教材、教具

「よくわかる Microsoft Word2021&Microsoft Excel2021&Microsoft PowerPoint2021」
(FOM 出版)

8 学生へのメッセージ

ビジネス業界で必ず必要となる「文書作成や表計算」を Microsoft 社の「Office2021」を使用して基礎から学習します。今回は Word,Excel,PowerPoint を基礎から学習しますので、日常生活でも活用してください。

9 教員氏名（ 家富 浩人 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 ）

10 特記事項

通常教員による授業

科目名（ 情報リテラシー ）

回数	授業内容
1	PC とアプリケーション（Office2019）の全体説明
2	PowerPoint 基礎知識
3	PowerPoint プレゼンテーション作成
4	PowerPoint スライドショーの実行
5	Word 基礎知識
6	Word 文書作成
7	Word グラフィック機能
8	Word ワードでの表作成
9	Excel 基礎知識
10	Excel データ入力
11	Excel エクセルでの表作成
12	Excel グラフの作成
13	Excel データ分析
14	Word・Excel アプリケーション間でのデータ共有
15	答案返却及び解説 授業の進捗度・理解度等により順序が変更する場合もある。

シラバス（授業計画書）

科目名（ 生物学 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

医療の基礎となる解剖学や生理学や病理学を理解する上で必要な生物の細胞において、細胞の構造、細胞の組織、DNA、遺伝、免疫についての基礎知識を学んでいく。

2 到達目標

生物学で用いる基本的な用語を理解し、解剖学・生物学・臨床医学・病理学などの学問を理解するための橋渡しを目指し、医療従事者と共通の認識がもてることを目指す。

3 授業の方法

毎回プリントを配布し、それに解説を加えながら空欄を埋めることにより理解を図る。

4 成績評価方法・基準

試験を 90%、平常点を 10%で評価します。

5 評価の際の特記事項

毎時間小テストを行い、それを平常点とします。欠席が多いと当然小テストの点数が無くなり、平常点も減少します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業時間を大切にすること。その日に学んだことはその時間内で理解するように心がけてください。それに加えて、忘れないように復習を行ってください。

7 使用教材、教具

テキストは毎回プリントを配ります。それと副教材を使います。

副教材：「サイエンスビュー 生物総合資料」 実教出版

8 学生へのメッセージ

最初は新しい言葉が沢山出てきてパニックになるかもしれませんが、重要な言葉は何度でも出てきます。それらを少しずつ覚えていくことで理解が急速に容易になるはずです。

自分の夢に向かって頑張りましょう。

9 教員氏名（ 松尾 泰博 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 非常勤講師 ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名（ 生物学 ）

回数	授業内容
1	生命の誕生、細胞成分
2	細胞成分（タンパク質、糖質、脂質、核酸、無機塩類）
3	様々な細胞 真核細胞の構造と働き
4	細胞の構造、細胞骨格、細胞外基質
5	細胞膜、浸透圧、選択的透過性、受動輸送
6	能動輸送、膜動輸送
7	DNAの構造、染色体とDNA
8	半保存的複製、DNAの複製、テロメア、PCR
9	DNAの修復、RNAの種類と働き、暗号解読
10	タンパク質の合成
11	突然変異、遺伝子変異とがん
12	がん（一般的な知識、ウイルスによるがん、がん遺伝子）
13	非特異的防御、炎症反応、特異的防御（抗体の構造）
14	抗体の種類、B細胞、T細胞、液性免疫、細胞性免疫
15	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 栄養学 ）

学科名 スポーツ系整科

学年 1 年

1 授業の内容

栄養素の種類と機能について学び、食品・栄養と健康のかかわりについて理解する。
そして、栄養素が体内でどのように消化・吸収・代謝されているか、また、食品を
そのように選択すればよいかを学ぶ。

2 到達目標

栄養学の知識を取り入れた生活をしていくことで、自分あるいは周りの人々の健康の
維持・増進を図る。

3 授業の方法

教科書・資料を用いた講義

4 成績評価方法・基準

定期試験 70 %、出席 15 %、授業態度 15 %

5 評価の際の特記事項

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

自身の食生活において実践することでより定着させてください。

7 使用教材，教具

新・栄養学総論 第2版 講談社

8 学生へのメッセージ

「食べる」ことは「生きる」ことです。食べることがいかに重要かということを
再認識する機会にしてほしいと思います。

9 教員氏名（ 橋本 孝子 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 非常勤講師 ）

10 特記事項

通常教員による授業

科目名（ 栄養学Ⅰ ）

回数	授業内容
1	栄養の概念 ・栄養と健康、疾患・摂取した栄養素の体内のはたらき
2	炭水化物の栄養 ・糖質の種類と構造
3	・糖質の体内代謝
4	タンパク質の栄養 ・タンパク質の構造と体内代謝 ・アミノ酸の構造と種類
5	脂質の栄養 ・脂質とは ・脂肪酸の構造と種類
6	ビタミンの栄養 ・ビタミンの分類と栄養学的特徴
7	ミネラルの栄養 ・ミネラルの分類と栄養学的特徴
8	水のはたらき
9	食品の摂取 ・生理的、心理的欲求 ・栄養管理
10	消化と吸収 ・消化吸収が行われる器官とはたらき ・栄養素の消化
11	・栄養素の吸収とそのしくみ ・栄養素の代謝
12	エネルギー代謝 ・エネルギー消費量とエネルギー必要量
13	日本人の食事摂取基準 ・食事摂取基準とは ・食事摂取基準の指標
14	食品の選択 ・食品分類法 ・食事バランスガイド
15	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ スポーツ栄養学 ）

学科名 スポーツ系整科

学年 1年

1 授業の内容

栄養学の基本とスポーツとの関係についての知識を学ぶ。 アスリートへの栄養サポートナド、スポーツ栄養学の実践を知る。

2 到達目標

栄養学の知識を取り入れた生活をしていくことで、各種スポーツへの影響を知り、自分あるいは周りの人々の健康の維持・増進を図る。

3 授業の方法

教科書・資料を用いた講義

4 成績評価方法・基準

定期試験 70 %、出席 15 %、授業態度 15 %

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

復習はもちろんですが自身の食生活において実践することでより定着させてください。

7 使用教材，教具

新・栄養学総論 第2版 講談社

8 学生へのメッセージ

「食べる」ことは「生きる」ことです。食べることがいかに重要かということを再認識する機会にしてほしいと思います。

9 教員氏名（ 橋本 孝子 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 非常勤講師 ）

10 特記事項

通常教員による授業

科目名（ スポーツ栄養学 ）

回数	授業内容
1	ガイダンス・食生活（食事・飲料）と健康運動
2	食事摂取基準と食事バランスガイド
3	エネルギーと炭水化物
4	身体活動量の定量法とその実際
5	タンパク質とカラダづくり
6	脂肪とウエイトコントロール
7	ビタミン・ミネラルとコンディショニング
8	水分とコンディショニング
9	サプリメントとエルゴジェニック
10	成長期、高齢期と女性スポーツの注意点
11	瞬発系・パワー系・持久系競技の栄養
12	審美系・階級制競技とチームスポーツの栄養
13	栄養・食事アセスメントと栄養サポートの方法（行動変容）
14	トピックス、まとめ
15	定期試験の解説、総復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 医用英語 ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 1 年

1 授業の内容

国際化の進む現代の日本社会において、世界共通語としての英語力の向上は重要である。社会で仕事をしていくうえで遭遇するであろう状況に応じた適切な英語の理解を目指し、場面を想定しながらのグループワークや学んだことを踏まえた課題作成に取り組んでいく。

2 到達目標

日本語を母語としない他者とコミュニケーションを図ろうとする姿勢を養う。また、柔道整復師として現場に立った際に、相手の状況を共有し必要な情報を伝えることができるように、医用英語を中心とした英語を理解し運用する力を身につける。

3 授業の方法

柔道整復師の業務現場での各場面に応じた英会話を、テキストを使用しながら学習する。また、コミュニケーションをとる相手(患者)の立場を考えることができるよう、グループワークを取り入れた授業を展開していく。

4 成績評価方法・基準

中間試験及び課題：70% 授業参加率：30%

5 評価の際の特記事項

授業参加率は、出席率・授業態度・グループワークでの積極性等を総合的に評価する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

課題が出された場合は、設題に沿った内容を期限に沿って提出する。

授業計画に沿ってテキストで予習を行う。その際に分からない単語や表現があれば事前に意味を調べておく。

7 使用教材，教具

医歯薬出版株式会社 発行 塩川春彦 執筆代表 / 杉山渉・小黒正幸 監修

柔道整復師のための英会話表現

8 学生へのメッセージ

英語でのコミュニケーションは皆さんの世界を広げます。卒業後になりたい自分をイメージしながら、医用英語を身につけ使うことにチャレンジしていきましょう。

9 教員氏名（ 中島 奈津子 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 非常勤講師 ）

10 特記事項

通常教員による授業

科目名 (医用英語)

回数	授業内容
1	授業についての説明・テキスト紹介 Introduction of this class and textbook we use
2	人体の名称について Body Parts
3	前回の復習 Review a previous lesson / 受付のための表現 Expressions for Registration I
4	前回の復習 Review a previous lesson / 医療面接のための表現 I Expressions for Medical consultations I
5	前回の復習 Review a previous lesson / 医療面接のための表現 II Expressions for Medical consultations II
6	前回の復習 Review a previous lesson / 身体観察・評価のための表現 I Expressions for the Physical Examination I
7	前回の復習 Review a previous lesson / 身体観察・評価のための表現 II Expressions for the Physical Examination II
8	前回の復習 Review a previous lesson / 評価の告知のための表現 I Expressions for the Examination Results I
9	前回の復習 Review a previous lesson / 評価の告知のための表現 II Expressions for the Examination Results II
10	中間試験 Midterm exam
11	中間試験返却 Return of exam / 施術のための表現 I Expressions for Treatments I
12	前回の復習 Review a previous lesson / 施術のための表現 II Expressions for Treatments II
13	前回の復習 Review a previous lesson / 処置・施術後の表現 I Expressions for Post-Treatment Consultations I / 課題指示 Instructions for the assignment
14	前回の復習 Review a previous lesson / 処置・施術後の表現 II Expressions for Post-Treatment Consultations II / 会計のための表現 Expressions for Payment Procedures
15	課題返却 Return of the assignment / 全体の振り返り Overall Review

授業内容や中間試験のスケジュールは、授業の進捗によって前後する場合があります。

シラバス（授業計画書）

科目名（ スポーツコンディショニング論 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1 年

1 授業の内容

医療人として不可欠な知識であるスポーツコンディショニング論の中でも、歴史、原理生理学と人間学を中心に、講義と小テストを中心に学習する。

2 到達目標

授業を通して学んだスポーツ学に関する、一般的知識を高め、身につけさせる。

3 授業の方法

講義（特に人物等については YouTube を使用）と小テストを中心に、スポーツに関する人間学を深める。

4 成績評価方法・基準

定期試験 70%、授業態度 10%、小テスト 10%、出席状況 10%で評価する。

5 評価の際の特記事項

授業態度は質問に対する返答、積極性を評価する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

特に毎時間配布するプリント、小テストの復習を確実にする。

7 使用教材，教具

自作「高校～社会人にかけてのスポーツ学」

8 学生へのメッセージ

スポーツを「する」ばかりではなく「観る」「支える」等の幅広い知識を身につけてください。

9 教員氏名（ 牟藤 央 ）

所 属（ 長崎県立佐世保北中学校、高等学校 ）

10 特記事項

通常教員による授業

科目名（ スポーツコンディショニング論 ）

回数	授業内容
1	コンディショニングとは
2	コンディショニングに関わる評価法およびオリンピックの歴史
3	コンディショニングに関わる身体的因子およびスポーツ文化の変容
4	コンディショニングに関わる環境的因子および変貌するオリンピック
5	ウォーミングアップの目的、理論および経済とスポーツ
6	クーリングダウンの目的、理論およびドーピングとスポーツ
7	体幹トレーニングの方法と実際およびスポーツの型
8	筋力トレーニングの方法と実際および技術の向上と練習法
9	各種トレーニングの方法と実際および動きの開始と持続
10	各種トレーニング計画の立案、トレーニングの原理と原則
11	競技種目特性とコンディショニングおよび体力トレーニングの基礎理論
12	球技系の種目特性とコンディショニングおよびスポーツにおけるけがについて
13	記録、採点系の種目特性とコンディショニングおよびスポーツの社会的役割
14	まとめ
15	試験返却・解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 解剖学Ⅰ ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 1 年

1 授業の内容

人体の形態と構造を調べる解剖学の基本的な項目を学んだ後、生体の二大調節系の神経系と内分泌系の構成と構造、外部の情報を得る感覚器の構造を学習する。

2 到達目標

細胞・組織の構造と機能、感覚器と神経系の構成と構造、ホルモンの種類を説明できる力を身につけさせる。

3 授業の方法

教科書に沿って解説する。必要に応じてスライドの使用や補足資料の配付を行い、理解度の確認のため適宜小テストを行う。

4 成績評価方法・基準

小テスト成績 20%、期末試験成績 80%の割合で、総合的に中間評価と後期末評価を行う。

5 評価の際の特記事項

中間評価と後期末評価の両方に合格しなければならない。中間評価で合格点に達しなかった場合には、後期末試験時にも再試験を実施する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

シラバスに沿って授業を進めるので、その日の授業内容について教科書を読み、予習して授業に臨むこと。予習で理解できなかったことを授業で解決するよう意識し、授業後は必ずその日の内容をまとめて、知識の整理・定着に努めること。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会編「解剖学」（改定第2版） 医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

解剖学は他の科目の基礎となる重要な科目です。解剖学名の暗記が必要になりますが、生理学で学ぶ人体の機能と関連づけて理解するよう心がけてください。また、局所を断片的に勉強するだけでなく、他の部位とのつながりのなかで個々の特徴を理解することが必要です。ヒトの体は驚くほど合理的にできています。そのおもしろさに気づき、授業の範囲にとどまらず自ら学んでもらえたらと思います。

9 教員氏名（ 山邊 芳久 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 柔道整復科 ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名（ 解剖学Ⅰ ）

回数	授業内容
1	人体解剖学概説①（人体の区分 解剖学用語 細胞と組織）
2	人体解剖学概説②（細胞膜 細胞小器官 DNA と遺伝子）
3	人体解剖学概説③（細胞分裂 上皮組織 支持組織）
4	人体解剖学概説④（血液 酸素運搬 免疫 止血）
5	人体解剖学概説⑤（筋組織 発生 胚葉 器官系統）
6	神経系①（神経系の区分 神経組織 灰白質と白質 中枢神経系の区分）
7	神経系②（脳室系 髄膜と脳脊髄液）
8	脳①（終脳 大脳皮質の機能局在 大脳辺縁系）
9	脳②（大脳白質 大脳基底核 間脳）
10	脳③（中脳 橋 延髄 小脳）
11	脊髄（区分 ベル・マジャンディーの法則 内部構造）
12	末梢神経－自律神経①（交感神経と副交感神経 支配の特徴）
13	末梢神経－自律神経②（交感神経系 副交感神経系）
14	まとめと復習（人体解剖概説，神経系）
15	答案返却および解説
16	末梢神経－脳神経①（嗅神経～三叉神経）
17	末梢神経－脳神経②（顔面神経～舌下神経）
18	末梢神経－脊髄神経①（前枝と後枝 頸神経叢 腕神経叢）
19	末梢神経－脊髄神経②（腕神経叢の構造 鎖骨上部・下部の枝）
20	末梢神経－脊髄神経③（腰神経叢 仙骨神経叢 デルマトーム）
21	伝導路①（反射路 上行性伝導路 脊髄視床路 後索路と内側毛帯）
22	伝導路②（特殊感覚の伝導路 下行性伝導路 錐体路）
23	感覚器系①（外皮 皮膚 皮膚腺 角質器）
24	感覚器系②（視覚器 眼球壁 視細胞）
25	感覚器系③（聴覚器，平衡覚器）
26	感覚器系④（味覚器，嗅覚器）
27	内分泌系①（内分泌器の働き 内分泌器 視床下部と下垂体）
28	内分泌系②（甲状腺 上皮小体 副腎皮質）
29	内分泌系③（副腎髄質 膵臓 精巣 卵巣）
30	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 解剖学Ⅱ ― 運動器の構造 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

柔道整復術の習得に不可欠である人体の運動器（骨格および筋肉）について学習する。

2 到達目標

人体の骨格の構造や各部位の名称。筋肉の起始停止やその作用、支配神経について理解する。

3 授業の方法

教科書の内容を中心に、PC プロジェクターを使用したパワーポイントによる講義。
パワーポイントの内容については資料を配布し、講義内容の補助とする。必要に応じて骨および筋の模写、板書を行う。また、理解度確認のために授業開始時に小テストを行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

前回の授業内容を復習し、これまでの知識を活かして授業に臨む。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「解剖学」改訂版第2版 医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

運動器は柔道整復師施術所で施術する際の基礎的な知識です。暗記が多くなりますが、一つ一つ覚えましょう。

また、授業で理解できなかった内容については、理解できるまで質問・学習してください。教科書をしっかり読むことを習慣にしましょう。

9 教員氏名（ 本田 光太郎 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名（ 解剖学Ⅱ ）

回数	授業内容
1	上肢帯の骨格①
2	上肢帯の骨格②
3	上腕骨
4	前腕の骨格①
5	前腕の骨格②
6	手部の骨格①
7	手部の骨格②
8	脊柱①
9	脊柱②
10	寛骨
11	大腿骨
12	下腿骨
13	足部の骨格
14	まとめ
15	試験解説
16	頭蓋骨①
17	頭蓋骨②
18	上肢帯の筋肉①
19	上肢帯の筋肉②
20	上肢の筋肉①
21	上肢の筋肉②
22	体幹の筋肉①
23	体幹の筋肉②
24	下肢帯の筋肉①
25	下肢帯の筋肉②
26	下肢の筋肉①
27	下肢の筋肉②
28	総復習
29	まとめ
30	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 生理学Ⅰ ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 1 年

1 授業の内容

ヒトの体のしくみとはたらきを学ぶ生理学について、基本的な内容から始め、筋、神経、感覚など、主にいわゆる動物性機能について学習する。

2 到達目標

筋収縮と神経の信号伝達のしくみ、これらが統合して行われる運動機能の特徴、ホルモンを用いた生体調節系の特徴などについて説明できる能力を身につけさせる。

3 授業の方法

教科書に沿って解説する。必要に応じてスライドの使用や補足資料の配付を行い、理解度の確認のため適宜小テストを行う。

4 成績評価方法・基準

小テスト成績 20%、期末試験成績 80%の割合で、総合的に中間評価と後期末評価を行う。

5 評価の際の特記事項

中間評価と後期末評価の両方に合格しなければならない。中間評価で合格点に達しなかった場合には、後期末試験時にも再度試験を実施する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

シラバスに沿って授業を進めるので、その日の授業内容について教科書を読み、予習して授業に臨むこと。予習で理解できなかったことを授業で解決するよう意識し、授業後は必ずその日の内容をまとめて、知識の整理・定着に努めること。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会監修「生理学」（改定第4版）南江堂

8 学生へのメッセージ

生理学では、見てわかる形のあるモノではなく「しくみ」に名前がついているので、始めはわからなくて当然です。授業が進むうちにいろいろな部分のつながりが見えてくると、一気にしくみの理解が深まります。自分自身の体の中で起きていることが見えてくると生命を大切にすると心も育ちます。

9 教員氏名（ 山邊 芳久 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 柔道整復科 ）

10 特記事項

通常教員による授業

科目名（ 生理学Ⅰ ）

回数	授業内容
1	生理学とは①（細胞の構造と機能 細胞膜 核 DNA の構造）
2	生理学とは②（DNA の複製 転写と翻訳 染色体と遺伝）
3	生理学とは③（組織・器官と生体の機能系）
4	生理学とは④（生体恒常性と統合機能 体液の区分と組成）
5	筋の生理①（骨格筋 骨格筋の構造 筋収縮のしくみ）
6	筋の生理②（骨格筋 筋線維の分類と疲労 骨格筋と張力 筋電図）
7	筋の生理③（心筋 平滑筋）
8	神経の生理①（神経信号の伝達 静止膜電位 活動電位 活動電位伝導の原則）
9	神経の生理②（興奮伝達 神経伝達物質 神経系の構成）
10	神経の生理③（脳の高次機能 連合野の統合機能）
11	神経の生理④（睡眠と覚醒 学習と記憶 内臓機能の調節）
12	神経の生理⑤（自律神経系の構成 自律神経系による調節）
13	まとめ復習① （生理学とは，筋の生理）
14	まとめ復習② （神経の生理）
15	答案返却および解説
16	運動の生理①（運動の調節 運動神経と運動単位 力の調節）
17	運動の生理②（脊髄による反射とその調節 伸張反射 複雑な反射）
18	運動の生理③（脳幹による運動調節 姿勢反射 歩行）
19	運動の生理④（高次運動機能 一次運動野 大脳基底核 小脳）
20	感覚の生理①（感覚受容器 視覚 聴覚）
21	感覚の生理②（平衡感覚 味覚 嗅覚 体性感覚）
22	感覚の生理③（内臓感覚 痛覚）
23	内分泌①（内分泌腺 ホルモンの分類 ホルモンの作用機序）
24	内分泌②（視床下部 下垂体 甲状腺 副甲状腺）
25	内分泌③（副腎皮質 副腎髄質 膵臓 精巣 卵巣）
26	骨の生理①（骨の構造）
27	骨の生理②（骨の成長）
28	まとめ復習① （運動の生理，感覚の生理）
29	まとめ復習② （内分泌，骨）
30	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道Ⅰ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

競技を目的とする柔道を教育するものではなく、柔道整復術の技術のバックボーンである主義や人格の形成、心身の鍛錬を目的として礼儀作法の習得。

2 到達目標

柔道審査項目合格

3 授業の方法

第一ステージ ― 柔道のよさを知り、楽しさを深めよう

第二ステージ ― 基本動作の習得、得意技を身に付ける

第三ステージ ― 形、試合を学び柔道実技審査合格

4 成績評価方法・基準

実技 80% 授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

競技の目的の柔道を教育するものではなく、機能的特性、構造的特性を育てたく考えているので、実技試験並びに真面目に授業に参加する姿勢を評価する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実技練習は危険の為、プリントを配布して柔道の基礎的知識を学んでもらう。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会編「柔道」南江堂

柔道事故のデータブック 柔道の安全指導 柔道の授業作り 柔道の形 講道館
形、技 DVD 等

8 学生へのメッセージ

柔道を通して、人としての振舞いの基本、礼儀作法を学んでほしい。

9 教員氏名（ 宮田 哲弘 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

10 特記事項

通常教員による授業

科目名（ 柔道Ⅰ ）

回数	授業内容
1	嘉納治五郎師範について、武道と柔道について
2	指導者の責任と安全配慮義務
3	柔道における事故要因と発生のメカニズム 事故や怪我を未然に防ぐ為には
4	礼法、柔道着の扱い方
5	後ろ受け身、補強運動
6	横受け身、前受け身、補強運動
7	姿勢と組み方、進退動作、組んでからの前回り受け身
8	崩しと体さばき、足を払われての受け身
9	固め技の基本動作
10	固め技の防御に必要な基本動作
11	立ち技での受け身の練習、小内刈り、大内刈り
12	立ち技での受け身の練習、出足払い、体落とし
13	立ち技での受け身の練習、背負い投げ
14	立ち技での受け身の練習、大腰、釣り込み腰
15	定期試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 社会保障制度 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1 年

1 授業の内容

社会保障制度の概要、保険診療の種類や基準について学び、担当教員の実務経験を基にした指導を行い、実践力を備えた人材へと成長を促す。

2 到達目標

社会保障制度、介護保険の内容を把握する。

3 授業の方法

教科書・配布資料を使用した講義

4 成績評価方法・基準

定期試験 80% 授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

授業態度には出欠状況、積極性も含み評価する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業で配布している資料に関する復習をし、自己の弱点を克服してください。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「社会保障制度と柔道整復師の職業倫理」

医歯薬出版株式会社

8 学生へのメッセージ

資格取得後も必要な知識です。一緒に頑張りましょう。

9 教員氏名（ 中野 仁 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所で施術管理者として実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 社会保障制度 ）

回数	授業内容
1	社会保障とは ①3つの機能 ②社会と今後の社会保障
2	社会保障制度とは ①公的年金 ②仕組み ③介護保険の意義 ④社会公的公衆の意義
3	医療保険制度とは ①医療保険の目的意義 ②保険診療の概要
4	医療保険制度とは ③医療保険制度の現状と課題
5	医療保険制度とは ④診療報酬制度
6	療養費制度の概要 ①療養費とは
7	療養費制度の概要 ②柔道整復療養費
8	療養費制度の概要 ③柔道整復療養費の推移
9	療養費制度の概要 ④療養費の概要
10	療養費制度の概要 ①-1 療養費の算定 a.療養費料金 b.初検料 c.相談料
11	療養費制度の概要 ①-2 療養費の算定 d.時間外 e.往療料 f.再検料
12	療養費制度の概要 ①-3 療養費の算定 g.施術料 h.一部負担金
13	療養費請求のケーススタディー
14	総復習
15	試験返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅰ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1 年

1 授業の内容

柔道整復術の沿革、歴史を医学史と並行して学び、柔道整復術の施術方法を知るために、基礎医学である解剖学及び生理学の学習をしながら、骨の機能と構造を理解し、骨折についての基礎を学習する。講師の実務経験をもとに、臨床例も紹介する。

2 到達目標

柔道整復師の業務範囲を理解し、各外傷の発生機序やそれらの特徴的症狀などを学び、施術に繋がる基礎知識を身につける。

3 授業の方法

教科書に準じて、板書を基本に授業を進める。また、適宜必要に応じて参考資料の配布を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業の復習により長期記憶に置き換わるため教科書を反復学習し、わからない部分を無くしていくことを推奨する。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）」南江堂
プリント資料

8 学生へのメッセージ

柔道整復師の仕事を理解するためには、専門分野の知識を身につける必要があります。理解を深めるためにも授業に集中し、不明な点は後回しせずにその都度質問をするように心掛けてください。

9 教員氏名（ 梅崎 航 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所において施術者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

1 1 科目名（ 基礎柔道整復学Ⅰ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション 柔道整復術および柔道整復師の沿革 P2～P6
2	業務範囲とその心得および柔道整復師倫理綱領
3	総論 ― 人体に加わる力、損傷時に加わる力①
4	損傷時に加わる力② ― 外傷のメカニズム
5	骨の形態と機能①
6	骨の形態と機能②
7	骨損傷の概説：骨損傷に関わる力，骨損傷の分類①：性状による分類
8	骨損傷の分類②：程度による分類，骨折線の方法による分類
9	骨損傷の分類③：外創との交通の有無による分類，外力の働いた部位による分類
10	骨損傷の分類④：外力の働き方による分類，部位による分類，経過による分類
11	骨折の症状：局所症状，全身症状①
12	骨折の症状：局所症状，全身症状②
13	骨折の症状：局所症状，全身症状③
14	骨折の症状 まとめ復習
15	試験解説
16	骨折の合併症：併発症①
17	骨折の合併症：併発症②
18	骨折の合併症：続発症①
19	骨折の合併症：続発症②
20	骨折の合併症：後遺症①
21	骨折の合併症：後遺症②
22	小児骨折の特徴①
25	小児骨折の特徴②
26	高齢者骨折の特徴
27	骨折の癒合日数，骨折の治癒経過
28	骨折総論まとめ復習
29	まとめ復習
30	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1 年

1 授業の概要

関節損傷および軟部組織損傷各論を学ぶうえの基礎として、各組織の構造と機能、それらの損傷総論を学習し、理解する。
各論では顎関節脱臼、脊椎の脱臼などを、担当教員の実務経験を基に理解を深める。

2 到達目標

関連ある解剖学の学習を同時におこないながら、関節損傷の分野を理解していく。
解剖学などの専門基礎分野を学習することで、柔道整復師が業務として取り扱う運動器の損傷についての基礎を理解することを目標とする。

3 授業の方法

スライドを用いた講義を中心に、資料を配布しながら授業を行う。

4 成績評価方法

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）

授業の前に、その日にやる範囲の教科書を読んでおいてください。授業終了後には、その日のうちに必ず復習してください。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編 改訂第7版」南江堂

8 学生へのメッセージ

柔道整復師になるうえで、大事な基礎内容となります。
短期記憶にならないよう復習を行い、一つひとつ確実に理解していきましょう。
不安なところはそのままにせず、質問してください。

9 教員氏名（ 川嶋 奈々美 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所で施術者としての実務経験あり。）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅱ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション / 関節の構造と機能① ― 解剖
2	関節の構造と機能②
3	関節の構造と機能③
4	関節損傷の概説
5	関節部損傷の分類①
6	関節部損傷の分類②
7	鑑別診断を要する類症
8	脱臼：定義と概説、発生頻度
9	脱臼の分類①
10	脱臼の分類②
11	脱臼の分類③
12	脱臼の症状
13	脱臼の合併症
14	前期のまとめ
15	定試験解説、まとめ復習
16	脱臼：定義と概説、発生頻度
17	関節構成組織損傷（1）靱帯，関節包の損傷
18	関節構成組織損傷（2）関節周辺を通過あるいは起始停止する筋・腱の損傷
19	関節構成組織損傷（3）関節軟骨損傷
20	関節構成組織損傷（4）その他関節構成組織の損傷①
21	関節構成組織損傷（4）その他関節構成組織の損傷②
22	まとめ復習
23	脱臼各論 ― 頭部、顔面の脱臼 A 顎関節脱臼①
24	A 顎関節脱臼②
25	B 頸椎の脱臼
26	C 胸椎の脱臼
27	まとめ復習①
28	まとめ復習②
29	まとめ復習③
30	試験解説 まとめ復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅲ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1 年

1 授業の内容

- ・運動器の軟部組織をその形態と構造を学びながら、それらの損傷についての基礎を学習する。
- ・頭部、体幹の軟部組織損傷の各理論を学習する。
- ・講師の実務経験で得た臨床例を挙げて説明し、各損傷の要点を理解する。

2 到達目標

柔道整復師の業務範囲を理解し、各外傷の発生機序やそれらの特徴的症状などを学び、施術に繋がる基礎知識を身につける。

3 授業の方法

教科書に準じて、板書を基本に授業を進める。また、適宜必要に応じて参考資料の配布を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

授業態度や質問の返答など、授業に対して積極的な姿勢も成績評価に加味します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って、事前に教科書の予習・復習をしてくること。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編第7版」南江堂
プリント資料

8 学生へのメッセージ

柔道整復師の仕事を理解するためには、専門分野の知識を身につけなければなりません。理解力を高める為にも、授業に集中し、不明な点は後回しせずに、その都度質問をするなりして、吸収してください。

9 教員氏名（ 久野 貴史 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有： 柔道整復師施術所で施術管理者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅲ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション / 運動器の軟部組織
2	A 筋の形態と機能①
3	A 筋の形態と機能②
4	B 筋損傷の概説
5	C 筋損傷の分類①
6	C 筋損傷に分類②
7	D 筋損傷の症状、E 筋損傷の治癒機序
8	F 筋損傷の予後
9	A 腱の構造と機能①
10	A 腱の構造と機能②、 B 腱損傷の概説
11	C 腱損傷の分類①
12	C 腱損傷の分類②
13	E 腱損傷の治癒機序
14	まとめ復習
15	定期試験の解説
16	末梢神経の損傷 — A 神経の構造と機能①
17	A 神経の構造と機能②
18	B 神経損傷の概説、 C 神経損傷の分類①
19	C 神経損傷の分類② D 末梢神経の症状①
20	D 末梢神経の症状②
21	E 末梢神経の治癒過程
22	まとめ復習
23	頭部、体幹の軟部組織損傷 A 頭部、顔面部の軟部組織損傷
24	B 頸部の軟部組織損傷①
25	B 頸部の軟部組織損傷②
26	C 胸・背部の軟部組織損傷①
27	C 胸・背部の軟部組織損傷②
28	D 腰部の軟部組織損傷
29	まとめ復習
30	定期試験の解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅳ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

柔道整復師の歴史、柔道整復術の施術内容、心得を学び、基礎知識を学習し、施術法（治療法）の基礎を学習する。各論として、頭部から体幹、腰部の骨折について学ぶ。担当教員の実務経験を基に各外傷の特徴等を解説する。

2 到達目標

柔道整復師についての理解力を深め、柔道整復術の基礎を理論から学び、習得し、専門基礎科目の理解、知識を学び、将来の基礎を築くことを目標とする。

3 授業の方法

教科書を用いた授業を行い、板書を中心に、資料やスライドを使用し学習する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80%、授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

授業態度には出席状況も加味する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進行計画に沿った教科書の復習を行い、教科書をただ読むだけではなく、要点をノートに書き、自分に沿ったまとめノートを作成する。

7 使用教材，教具

全国柔道整復協会編「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）南江堂

8 学生へのメッセージ

日々の学習習慣を身につけ、柔道整復師として必要な知識を習得し、国家試験合格を目指してください。

9 教員氏名（ 中野 仁 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所にて施術管理者として 20 年の勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅳ ）

回数	授業内容
1	柔道整復師の歴史、医学史
2	柔道整復術について
3	整復法：徒手整復時の配慮 ①整復目的の説明と理解 ②整復環境の整備
4	整復法：徒手整復時の配慮 ③既往歴ならびに他疾患との関連 ④合併症の確認
5	整復法：徒手整復時の配慮 ⑤整復手技の確認 ⑥整復手技の注意
6	骨折の整復について
7	非観血的整復の要点 ①早期の整復 ②整復とは
8	非観血的整復の要点 ③整復が不要な場合 ④整復が適応しない場合
9	整復の一般原則について
10	整復の分類について（牽引直圧・屈曲整復法）
11	脱臼の整復法について
12	脱臼の整復法（非観血的整復の要点・原則・分類）
13	軟部組織損傷の初期処置（捻挫・筋挫傷・初期処置）
14	固定法について（固定施行時の配慮・固定の目的）
15	試験返却&解説
16	頭部・体幹の骨折 ／ 頭部・顔面の骨折 ①-1 頭蓋骨骨折
17	頭部・体幹の骨折 ／ 頭部・顔面の骨折 ①-2 頭蓋骨骨折
18	脳震盪について
19	頭部・体幹の骨折 ／ 頭部・顔面の骨折 ①-1 顔面頭蓋骨折
20	頭部・体幹の骨折 ／ 頭部・顔面の骨折 ①-2 顔面頭蓋骨折
21	頸椎の骨折 ①-1 上位頸椎骨折
22	頸椎の骨折 ①-2 上位頸椎骨折
23	頸椎の骨折 ①-1 中下位頸椎骨折
24	頸椎の骨折 ①-2 中下位頸椎骨折
25	胸椎の骨折 ①-1 上部胸椎棘突起骨折
26	胸椎の骨折 ②-1 胸椎の椎体骨折
27	胸椎の骨折 ②-2 胸椎の椎体骨折
28	腰椎の骨折 ①
29	総復習
30	試験返却&解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅰ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1 年

1 授業の内容

- ・柔道整復師の後療法を学習する。
- ・指導管理を学習する。
- ・上肢骨折の各論を学習する。
- ・臨床現場で使用する物理機器などを紹介し、使用方法を説明する。
- ・実務経験のある教員による学習。

2 到達目標

柔道整復師として損傷への施術方法を学び、柔道整復術の基礎を習得する。
上肢骨折（鎖骨骨折から上腕骨骨折）の各論を学び、各損傷の理論を理解する。

3 授業の方法

教科書に準じて、板書を基本に授業を進める。また、適宜必要に応じて参考資料の配布を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業の復習により長期記憶に置き換わるため教科書を反復学習し、わからない部分を無くしていくことを推奨する。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）南江堂

8 学生へのメッセージ

柔道整復師として働くために必要な知識になり、国家試験の合格にも繋がるので、授業は集中して、理解を深めてください。

9 教員氏名（ 梅崎 航 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所にて施術者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

1 1 科目名 (臨床柔道整復学Ⅰ)

回数	授業内容
1	後療法について A 用量 B 患者の準備
2	C 手技療法①
3	C 手技療法②
4	D 運動療法①
5	D 運動療法②
6	D 運動療法③
7	E 物理療法①
8	E 物理療法②
9	E 物理療法③
10	E 物理療法④
11	指導管理 A 患者とその環境の把握 B 患者の環境に対する指導管理
12	C 自己管理に対する指導
13	まとめ復習①
14	まとめ復習②
15	試験の解説
16	上肢骨折各論 A 鎖骨骨折①
17	A 鎖骨骨折②
18	B 肩甲骨の骨折①
19	B 肩甲骨の骨折②
20	C 上腕骨近位の部骨折①
21	C 上腕骨近位の部骨折②
22	C 上腕骨近位の部骨折③
23	D 上腕骨骨幹部骨折①
24	D 上腕骨骨幹部骨折②
25	E 上腕骨遠位の部骨折①
26	E 上腕骨遠位の部骨折②
27	E 上腕骨遠位の部骨折③
28	まとめ復習①
29	まとめ復習②
30	後期定期試験

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅰ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1 年

1 授業の概要

- ・基本包帯法の技術を習得。
- ・各部位への包帯法の技術を習得。
- ・軟性材料、硬性材料の作成、固定法の習得。
- ・講師の実務経験から得た固定法のポイントを説明し、実践する。

2 到達目標

- ・基本包帯法、冠名包帯法、各部位の包帯固定の基礎技術を身に着ける。
- ・硬性材料の作成方法を習得する。

3 授業方法

- ・教科書を用いた講義及び講義内容に関連する実技の実践。

4 成績評価方法・基準

- ・定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

- ・身だしなみ及び言葉遣いも評価の対象となります。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

- ・授業時間外の反復練習が技術向上の鍵です。
- ・様々な体型や体格の方、違う性別の方に包帯を巻くことも大切です。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会監修「包帯固定学」（改訂第2版）南江堂

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）南江堂

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・実技編」（改訂第2版）南江堂

8 学生へのメッセージ

- ・包帯固定学は柔道整復師の基本であり、習得することによりテーピングなどの応用にも繋がります。臨床現場でも必要な技術であり、技術が身に付くことの楽しさを学んでほしいです。

9 教員氏名（ 梅崎 航 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ： 柔道整復師施術所で施術者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

1 1 科目名 (柔道整復実技Ⅰ)

回数	授業内容
1	前期ガイダンス
2	固定及び固定材料について
3	巻軸帯の巻き方と注意事項、巻軸帯の巻き戻し
4	基本包帯法 ①環行帯、螺旋帯、蛇行帯
5	基本包帯法 ②環行帯、螺旋帯、蛇行帯
6	基本包帯法 ③環行帯、螺旋帯、蛇行帯
7	基本包帯法 ①折転帯、亀甲帯、麦穂帯
8	基本包帯法 ②折転帯、亀甲帯、麦穂帯
9	冠名包帯法①
10	冠名包帯法②
11	冠名包帯法③
12	三角巾を用いた固定
13	基本包帯法の応用①
14	基本包帯法の応用②
15	前期試験の解説
16	各部位 肩部の包帯
17	各部位 上腕部から肘関節部の包帯
18	各部位 前腕部から手関節部の包帯
19	各部位 手指の包帯
20	各部位 下腿部から足関節部の包帯
21	硬性材料① － 厚紙副子固定 上肢
22	硬性材料② － 厚紙副子固定 下肢
23	硬性材料③ － アルフェンス固定 上肢
24	硬性材料④ － アルフェンス固定 上肢
25	硬性材料⑤ － プライトン副子固定 上肢
26	硬性材料⑥ － プライトン副子固定 下肢
27	硬性材料⑦ － キャストライト
28	硬性材料⑧ － キャストライト
29	後期まとめ
30	後期試験の解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 1 年

1 授業の内容

- ・柔道整復術の診察法の基礎を学ぶ。
- ・テーピングの基礎技術を学ぶ。
- ・スポーツコンディショニングの基礎実技を学ぶ。
- ・講師のスポーツ現場での実務経験を活かし、より実践的な手法を学ぶ。

2 到達目標

診察法の手順を，医療面接をもとにロールプレイなどを行いながら学んでいく。
テーピングの種類，巻き方，応用などを実技で習得する。

3 授業の方法

相互に施術者と患者になりながら，診察法の基本を，ロールプレイを通して行う。
互いにテーピングを施行し，その効果を評価し合う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

実習着は必ず着用してください。着用のない場合は減点対象となります。

6 授業時間外学習（予習・復習等）

各自復習を心がけてください。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・実技編」（改定第2版）南江堂

8 学生へのメッセージ

- ・臨床力を身に付けるために，集中して取り組んでください。
- ・実習着は常に清潔を心掛けてください。爪は短くし，装飾品（指輪，ピアスなど）は全て外してください。女子は髪を後ろにまとめるようにしてください。

9 教員氏名（ 久野 貴史 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所で施術管理者としての実務経験あり。）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 柔道整復実技Ⅱ ）

回数	授業内容
1	ガイダンス：テーピング理論（１）
2	テーピング理論（２）
3	テーピングの実際：テーピング基礎（１）
4	テーピングの実際：テーピング基礎（２）
5	テーピングの実際：テーピング基礎（３）
6	上肢テーピング①
7	上肢テーピング②
8	上肢テーピング③
9	上肢テーピング④
10	下肢テーピング①
11	下肢テーピング②
12	下肢テーピング③
13	下肢テーピング④
14	前期まとめ
15	試験の解説
16	スポーツコンディショニングの基礎：コンディショニングとは
17	コンディショニングに関する要因
18	コンディショニングを崩す要因とは
19	コンディショニングのポイント①
20	コンディショニングのポイント②
21	プライマリーチェックの指標
22	スポーツ障害の発生要因
23	ストレッチング理論①
24	ストレッチング理論②
25	各運動領域におけるストレッチング①
26	各運動領域におけるストレッチング②
27	各運動領域におけるストレッチング③
28	各運動領域におけるストレッチング④
29	後期まとめ
30	定期試験の解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅲ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

- ・柔道整復術の各種固定法および徒手検査法を、担当教員の実務経験を取り入れて学ぶ。
- ・**臨床実習前の適正、適応試験の実施。**

2 到達目標

- ・柔道整復術を基本技法の固定材料の種類、特性を学び、それらの実践技術を修得する。
- ・徒手検査法の知識と技術を修得する。

3 授業の方法

実習室において実技実習を行い、施術法を体得する。

必要に応じて資料を配布する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 実技試験 80%，授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

出欠席，容姿（実習着，髪色，爪など），衛生材料の管理を授業態度として評価します。

授業に関係のないスマートフォンの使用は減点の対象とします。

6 授業時間外学習

授業進行計画を参考に，事前に内容を確認，予習をする。実習で学んだ実技内容を必ず復習する時間をつくること。繰り返しの実技演習が技術を修得す上で重要なことを認識すること。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編第7版」南江堂

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・実技編第2版」南江堂

資料配布

8 学生へのメッセージ

- ・実技実習は臨床で重要になります，授業に集中し不安に思ったことは質問し理解を深めてください。
- ・実習着は常に清潔にし，爪は短くし，装飾品（指輪，ピアスなど）は全て外してください。女子は髪を後ろにまとめてください。

9 教員氏名（ 川嶋 奈々美 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所で施術者としての実務経験あり。）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 柔道整復実技Ⅲ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション 柔道整復師業務
2	運動器系の疼痛を訴える患者の施術：損傷の診察（１） 実技編 P5～P9
3	運動器系の疼痛を訴える患者の施術：損傷の診察（２） 実技編 P5～P9
4	運動器系の疼痛を訴える患者の施術：損傷の診察（３） 実技編 P5～P9
5	損傷の診察（視診・問診）
6	損傷の診察（触診）
7	損傷の診察（検査）
8	損傷の診察（評価）
9	体表解剖：上肢触診
10	体表解剖：下肢触診
11	体表解剖：体幹触診
12	ロールプレイングを用いた触診①
13	ロールプレイングを用いた触診②
14	前期まとめ
15	試験解説 まとめ復習
16	徒手整復の実際：骨折整復の基礎（１）
17	徒手整復の実際：骨折整復の基礎（２）
18	徒手整復の実際：脱臼整復の基礎（１）
19	徒手整復の実際：脱臼整復の基礎（２）
20	徒手整復の実際：脱臼整復の基礎（３）
21	軟部組織損傷の初期処置法（１）
22	軟部組織損傷の初期処置法（２）
23	軟部組織損傷の初期処置法（３）
24	軟部組織損傷の初期処置法（４）
25	臨床実習について （１）
26	臨床実習について （２）
27	臨床実習について （３）
28	後期まとめ復習 （１）
29	後期まとめ復習 （２）
30	試験解説 まとめ復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床実習Ⅰ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

臨床実習施設（附属施術所他）において、実務経験のある実習指導者から、臨床体験で得た症例の知識をもとに、見学実習を主体とした臨床実習を行う。

2 到達目標

- ・臨床現場における適切な行動・態度、そして責任感について知る。
- ・施術および施術所の運営（予約システム、受付、会計、スタッフとのコミュニケーション等）について知る。

3 授業の方法

- ・各臨床実習施設の臨床実習指導者の指示のもと、臨床現場に即した行動の取り方。
- ・実際の施術の現場や、関連する仕事の様子を見学するための基礎知識を学ぶ。一連の業務内容を理解するための基本的姿勢について知る。
- ・臨床実習は異なる施設で実施されるため、施設への往来についての留意点を整理し、臨床実習施設に関する情報を得るための手段を知る。

4 成績評価方法・基準

出席、実習記録レポート等の提出物、各指導者による評価を総合して最終評価とする。

5 評価の際の特記事項

毎回のレポート提出は評価の基準となる。

6 授業時間外学習

日々、臨床実習に必要な基礎知識（専門基礎科目、専門科目）を学習する。

7 使用教材、教具

「実習の手引き」

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）

8 学生へのメッセージ

- ・資格取得後、就職先で実務を実践することを念頭に置いて体験、学習しましょう。
- ・時間厳守、コンプライアンスを実践し、自己責任を持って行動してください。
- ・「実習の手引き」に記載されている注意事項を厳守してください。
- ・体調不良や交通機関のトラブルなどで欠席、遅刻する場合は、必ず担当教員に連絡をしてください。

9 教員氏名（ 担当教員：久野 貴史 他専任教員 実習調整者：中野 仁 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復施術所での施術者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

実務経験を有する教員が臨床実習調整者となり、臨床実習指導者が現地で担当する。

臨床実習指導者は、「柔道整復師専科教員」の有資格者、または、「臨床実習指導者講習会」受講修了者に限る。

科目名（ 臨床実習Ⅰ ）

回数	
	2月～3月の間で、5日～9日間（45時間）の臨床実習を行う。

シラバス（授業計画書）

科目名（ 解剖学Ⅲ ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 2 年

1 授業の内容

解剖学のうち、生体の2大調節系である内分泌系と神経系、そして調節系の情報を得る感覚器の構造について学習する。

2 到達目標

内分泌器の種類と構造、中枢神経系と末梢神経系の構造と特徴、感覚器の構造を説明できる力を身につけさせる。

3 授業の方法

教科書に沿って解説する。必要に応じてスライドの使用や補足資料の配付を行い、理解度の確認のため適宜小テストを行う。

4 成績評価方法・基準

小テスト成績 30%、期末試験成績 70%の割合で、総合的に中間評価と後期末評価を行う。

5 評価の際の特記事項

中間評価と後期末評価の両方に合格しなければならない。中間評価で合格点に達しなかった場合には、後期末試験時にも再試験を実施する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

シラバスに沿って授業を進めるので、その日の授業内容について教科書を読み、予習して授業に臨むこと。予習で理解できなかったことを授業で解決するよう意識し、授業後は必ずその日の内容をまとめて、知識の整理・定着に努めること。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会編「解剖学」（改定第2版） 医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

解剖学は他の科目の基礎となる重要な科目です。解剖学名の暗記が必要になりますが、生理学で学ぶ人体の機能と関連づけて理解するよう心がけてください。また、局所を断片的に勉強するだけでなく、他の部位とのつながりのなかで個々の特徴を理解することが必要です。ヒトの体は驚くほど合理的にできています。そのおもしろさに気づき、授業の範囲にとどまらず自ら学んでもらえたらと思います。

9 教員氏名（ 山邊 芳久 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 柔道整復科 ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名（ 解剖学Ⅲ ）

回数	授業内容
1	生殖器①（生殖器 男性生殖器 精巣 精路 付属腺）
2	生殖器②（女性生殖器 子宮 卵巣 性周期）
3	内分泌系①（内分泌器の働き 内分泌器 視床下部と下垂体）
4	内分泌系②（甲状腺 上皮小体 副腎皮質）
5	内分泌系③（副腎髄質 膵臓 精巣 卵巣）
6	神経系①（神経系の区分 神経組織 灰白質と白質 中枢神経系の区分）
7	神経系②（脳室系 髄膜と脳脊髄液）
8	脳①（終脳 大脳皮質の機能局在 大脳辺縁系）
9	脳②（大脳白質 大脳基底核 間脳）
10	脳③（中脳 橋 延髄 小脳）
11	脊髄（区分 ベル・マジャンディーの法則 内部構造）
12	伝導路①（反射路 上行性伝導路 脊髄視床路 後索路と内側毛帯）
13	伝導路②（特殊感覚の伝導路 下行性伝導路 錐体路）
14	まとめ復習
15	試験解説
16	末梢神経－脳神経①（嗅神経 視神経 動眼神経 滑車神経 外転神経）
17	末梢神経－脳神経②（三叉神経 顔面神経 内耳神経）
18	末梢神経－脳神経③（舌咽神経 迷走神経 副神経 舌下神経）
19	末梢神経－脊髄神経①（前枝と後枝 頸神経叢）
20	末梢神経－脊髄神経②（腕神経叢の構造 鎖骨上部・下部の枝）
21	末梢神経－脊髄神経③（腰神経叢）
22	末梢神経－脊髄神経④（仙骨神経叢 陰部神経叢 デルマトーム）
23	末梢神経－自律神経①（交感神経と副交感神経 支配の特徴）
24	末梢神経－自律神経②（交感神経系）
25	末梢神経－自律神経③（副交感神経系）
26	感覚器系①（外皮 皮膚 皮膚腺 角質器）
27	感覚器系②（視覚器 眼球壁 視細胞）
28	感覚器系③（聴覚器，平衡覚器）
29	感覚器系④（味覚器，嗅覚器）
30	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 生理学Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 2 年

1 授業の内容

ヒトの体のしくみとはたらきを学ぶ生理学のなかで、循環、呼吸、泌尿、消化吸収など、いわゆる植物性機能について学習する。

2 到達目標

血液循環や呼吸の調節、尿生成による体液調節、食物の消化と吸収した栄養素の代謝調節のしくみについて説明できる能力を身につけさせる。

3 授業の方法

教科書に沿って解説する。必要に応じてスライドの使用や補足資料の配付を行い、理解度の確認のため適宜小テストを行う。

4 成績評価方法・基準

小テスト成績 30%、期末試験成績 70%の割合で、総合的に中間評価と後期末評価を行う。

5 評価の際の特記事項

中間評価と定期評価の両方に合格しなければならない。中間評価で合格点に達しなかった場合には、後期末試験時にも再試験を実施する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

シラバスに沿って授業を進めるので、その日の授業内容について教科書を読み、予習して授業に臨むこと。予習で理解できなかったことを授業で解決するよう意識し、授業後は必ずその日の内容をまとめて、知識の整理・定着に努めること。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会監修「生理学」（改定第4版）南江堂

8 学生へのメッセージ

生理学では、見てわかる形のあるモノではなく「しくみ」に名前がついているので、始めはわからなくて当然です。授業が進むうちにいろいろな部分のつながりが見えてくると、一気にしくみの理解が深まります。自分自身の体の中で起きていることが見えてくると生命を大切にすること心も育ちます。

9 教員氏名（ 山邊 芳久 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 柔道整復科 ）

10 特記事項

通常教員による授業

科目名（ 生理学Ⅱ ）

回数	授業内容
1	生殖①（性分化 男性生殖器 精子形成 勃起と射精）
2	生殖②（女性生殖器 性周期 妊娠と分娩）
3	血液①（血液の成分と組成）
4	血液②（止血，血液型）
5	血液③（免疫）
6	骨の生理①（骨の構造）
7	骨の生理②（骨の成長）
8	循環①（心臓）
9	循環②（血管）
10	循環③（リンパ系，循環調節）
11	呼吸の生理①（呼吸器系と構造，換気）
12	呼吸の生理②（ガス交換と運搬，呼吸周期の調節）
13	まとめ復習①
14	まとめ復習②
15	答案返却および解説
16	尿の生成と排泄①（腎臓の構造と機能，尿の生成）
17	尿の生成と排泄②（腎血流量，排尿）
18	尿の生成と排泄③（腎臓による体液の調節）
19	栄養と代謝①（生体に必要な栄養素，エネルギー代謝）
20	栄養と代謝②（栄養素の代謝，食物と栄養）
21	消化と吸収①（消化器系の構成とはたらき）
22	消化と吸収②（食物の消化と吸収）
23	消化と吸収③（各栄養素の消化と吸収）
24	体温とその調節①（体温，熱産生，熱放散）
25	体温とその調節②（体温調節，気候馴化，発熱とうつ熱）
26	全体のまとめ④
27	全体のまとめ⑤
28	全体のまとめ⑥
29	全体のまとめ⑦
30	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 運動学 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

身体の運動について、その全体像を概観する。

2 到達目標

運動学的基礎知識の習得と身体運動のメカニズムについて考察できるようになる。

3 授業の方法

教科書および適宜必要に応じて参考資料の配布を行う。

スライドを中心に授業を行い、授業毎に小テストを実施する。

4 成績評価方法・基準

前期、後期ともに定期試験 100%

最終評価は前期評価 50%＋後期評価 50%とする。

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って、事前に教科書の予習・復習をしていくこと。

予習することで授業内容を理解しやすくなり、復習することで長期記憶につながります。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会 監修 「運動学 第3版」 医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

・運動学は正常運動を分析するのにとても重要な科目となり、柔道整復師には欠かせない知識となりますので、日々の学習で内容を理解し、復習することが大切になります。運動器の機能を確実に理解できるよう学んでいきましょう。(川嶋)

・私たちが何気なく行っている身体運動は複雑なメカニズムより構成されています。このことを理解することは、治療成績や臨床成績を向上するために必須となります。よりよい治療家となり将来の患者様の役に立つことが出来るよう、運動学の基礎を学びましょう。(川上)

9 教員氏名（ 川嶋奈々美（運動器の機能に関する事項）、 川上 恭 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

10 特記事項

通常教員による授業

科目名（ 運動学 ）

回数	授業内容	担当
1	運動の表し方	川嶋奈々美
2	身体運動と力学	
3	運動器の構造と機能	
4	神経の構造と機能	
5	反射と随意運動	
6	四肢と体幹の運動（肩甲帯）	
7	四肢と体幹の運動（肘関節）	
8	四肢と体幹の運動（手関節・手部）	
9	四肢と体幹の運動（股関節）	
10	四肢と体幹の運動（膝関節）	
11	四肢と体幹の運動（股関節）	
12	四肢と体幹の運動（足関節）	
13	四肢と体幹の運動（頸椎・胸椎）	
14	四肢と体幹の運動（腰椎）	
15	試験解説	
16	立位姿勢のランドマーク	川上 恭
17	立位姿勢のメカニズム・筋活動	
18	歩行（歩行周期）	
19	歩行（運動学的解析）	
20	歩行（運動力学的解析）	
21	歩行（筋活動）	
22	歩行（エネルギー代謝）	
23	歩行（走行・異常歩行）	
24	運動学習（記憶）	
25	運動学習（動機づけ・結果の知識）	
26	まとめ（解剖学・生理学的基礎）	
27	まとめ（四肢・体幹の運動学）	
28	まとめ（立位・運動学習）	
29	まとめ（歩行）	
30	答案返却および解説	

シラバス（授業計画書）

科目名（ 一般臨床医学Ⅰ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2 年

1 授業の内容

診察（視診、問診、聴診、触診など）、生命徴候の測定・検査（生理機能検査など）について学修する。主要な疾患の病態、検査法、治療法、予後について学修し、一般臨床医学の理解を深める。

2 到達目標

柔道整復師の臨床に必要な知識として、基本的な診察や検査法、主要な疾患について学修し、国家試験に対応できると共に、臨床に応用できることを目標とする。

3 授業の方法

プリントを配布し、パワーポイントを使用して講義を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80%、授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

授業態度には出席率、小テスト結果を加味する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業毎の復習を徹底する。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「一般臨床医学（改訂第3版）」医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

診察法の基本などは、共通する基礎知識であり、臨床現場では特に重要なので、国家試験だけではなく、資格取得後もさらに向上するための知識を身につけましょう。

9 教員氏名（ 川上 恭 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

10 特記事項

通常教員による授業

科目名（ 一般臨床医学Ⅰ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション、ガイダンス
2	診察概論、診察各論（医療面接 問診）
3	診察各論（視診）
4	診察各論（打診・聴診・触診）
5	診察各論（生命徴候）
6	診察各論（感覚検査・反射検査・生体機能検査）
7	消化器疾患：消化管疾患
8	消化器疾患：肝疾患
9	消化器疾患：胆・膵疾患
10	呼吸器疾患：肺炎、肺結核、他
11	呼吸器疾患：COPD、肺癌、他
12	循環器疾患：不整脈、心不全、他
13	循環器疾患：高血圧・動脈疾患・静脈疾患・先天性心疾患
14	前半部分の総復習
15	中間試験解説
16	血液疾患：貧血
17	血液疾患：白血病他
18	内分泌・代謝疾患：巨人症、尿崩症、他
19	内分泌・代謝疾患：クッシング症候群、アジソン病、他
20	内分泌・代謝疾患：糖尿病、痛風
21	膠原病
22	腎・尿路疾患：ネフローゼ症候群、腎不全
23	腎・尿路疾患：膀胱炎、前立腺肥大症、前立腺癌
24	神経系疾患：脳出血、脳梗塞
25	神経系疾患：パーキンソン病、ALS、他
26	環境要因による疾患（熱中症）
27	その他の疾患
28	総復習（１）
29	総復習（２）
30	定期試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 病理学 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

疾患が発生する基本原理を学ぶ

2 到達目標

病気とその基盤になる細胞、組織レベルの現象を結び付けて考える事ができる。

3 授業の方法

教科書に従って授業を進める。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

事前に教科書の予習を行うこと。予習することにより授業内容を理解することができ、知識が深まります。

7 使用教材，教具

「病理学」医歯薬出版株式会社

8 学生へのメッセージ

病理学の授業はじめは、教科書を読んでも分からないが、授業が進むうちに色々な部分の繋がりが分かるようになり理解が深まります。

9 教員氏名（ 松永 省三 ）

所 属（ マツナガ歯科 ）

10 特記事項

通常教員による授業

科目名（ 病理学 ）

回数	授業内容
1	病理学概要
2	病因（内因）
3	病因（外因）
4	循環障害（ヒトの循環系）
5	循環障害（充血、うつ血）
6	循環障害（貧血、虚血）
7	循環障害（出血）
8	循環障害（血栓症）
9	循環障害（塞栓症）
10	循環障害（梗塞）
11	循環障害（水腫、浮腫、脱水症、ショック）
12	退行性病変（萎縮）
13	退行性病変（変性）
14	退行性病変（壊死と死）
15	答案返却および解説
16	退行性病変（再生、化生、移動）
17	退行性病変（創傷治療）
18	退行性病変（組織内異物の処理）
19	炎症（炎症の一般）
20	炎症（炎症の分類）
21	腫瘍（腫瘍の一般）
22	腫瘍（良性腫瘍）
23	腫瘍（悪性腫瘍）
24	免疫異常（液性免疫と細胞性免疫）
25	免疫異常（アレルギー）
26	免疫異常（免疫不全、自己免疫異常）
27	先天性異常（総論）
28	先天性異常（遺伝性疾患）
29	先天性異常（染色体異常）
30	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 外科学概論 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

柔道整復師として不可欠な外科学の基礎知識と各分野の外科疾患を学習・理解して資格習得と日常診療に役立つように講義していきます。

2 到達目標

分野毎に必要な・十分な外科学知識を、その日の講義内に習得していただき、国試の問題にも対応できるように、毎回授業を進めていきます。

3 授業の方法

教科書に沿って授業を進めますが、プリントとスライドを補助的に用い、授業の最後は、国試の問題を皆さんで解いていただきます。

4 成績評価方法・基準

期末試験の結果を 100%評価します。

5 評価の際の特記事項

特にありません。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

事前に教科書の予習をお願いします。

7 使用教材，教具

外科学概論 改訂第4版（南江堂）

必要に応じてプリント配布、スライドで解説

8 学生へのメッセージ

予習をしたうえで疑問や不明点な点、日常生活での体験などを携えて、興味を持って授業に臨んでいただくことを期待します。

9 教員氏名（ 黒木 政純 ）

所 属（ くろき医院 ）

実務経験の詳細（ 外科の診療・手術、看護学校の講義）

10 特記事項

通常教員による授業

科目名（ 外科学概論 ）

回数	授業内容
1	損傷
2	炎症と外科感染症
3	腫瘍
4	ショック、意識障害
5	輸血・輸液
6	消毒と滅菌、手術
7	麻酔、移植と免疫
8	出欠と止血、心肺蘇生法
9	脳神経外科疾患①
10	脳神経外科疾患②、甲状腺・頸部疾患
11	胸壁・呼吸器疾患、乳腺疾患
12	心臓・脈管疾患
13	腹部外科疾患①
14	腹部外科疾患②
15	試験問題解説、外科学まとめ

シラバス（授業計画書）

科目名（ 整形外科学 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2 年

1. 授業の内容

総論では、整形外科診察法、整形外科検査法、整形外科治療法、骨関節損傷総論などについての学習。また各論では、疾患別・身体部位別に学習していく。

2. 到達目標

- 1) 総論では、運動器についての基礎知識、代表的な整形外科診察法、整形外科検査法、整形外科治療法などについての理解を深める。
- 2) 各論では、整形外科疾患の概念、定義、疫学、病因、病態、症状、検査所見、治療法、予後などを理解していく。

3. 授業の方法

プリントを配布後、パワーポイントを使用しての講義を行う。

4. 成績評価方法・基準

基本的には定期試験にて評価をするが、授業出席率・授業態度も加味する。

5. 評価の際の特記事項

特になし。

6. 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

分量が非常に多い科目ですので、一気に覚えるのはとても難しいと思います。
授業時に話したポイントに関してはこまめに復習し、覚えるようにしてください。

7. 使用教材

社団法人全国柔道整復学校協会監修：整形外科学 改訂第3版，南江堂。
配布プリント

8. 学生へのメッセージ

覚えるべき分量が多い科目ですが、各整形外科疾患の知識を深め、国家試験だけでなく、資格取得後、臨床の場においても応用できる知識を身につけていきましょう。

9. 教員名 （ 川上 恭 ）

所 属 （ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

10. 特記事項

通常教員による授業

科目名(整形外科学)

回数	授業内容
1	オリエンテーション、整形外科とは
2	整形外科学の診察法・診断法
3	整形外科学の検査法・治療法
4	疾患別各論 感染性疾患
5	疾患別各論 骨及び軟部腫瘍
6	疾患別各論 非感染性軟部・骨関節疾患
7	疾患別各論 全身性の骨・軟部疾患、
8	ここまでのまとめ
9	疾患別各論 骨端症
10	疾患別各論 四肢循環障害、下肢の神経麻痺、
11	疾患別各論 上肢の神経麻痺、神経障害
12	全身性の神経、筋疾患
13	手指の変形
14	身体部位別各論、腰部・膝
15	答案返却及びその解説授業
16	身体部位別疾患各論 ― 体幹①
17	身体部位別疾患各論 ― 体幹②
18	身体部位別疾患各論 ― 体幹③
19	身体部位別疾患各論 ― 肩、肩甲帯
20	身体部位別疾患各論 ― 上腕、肘関節①
21	身体部位別疾患各論 ― 上腕、肘関節②
22	身体部位別疾患各論 ― 前腕
23	身体部位別疾患各論 ― 手関節
24	身体部位別疾患各論 ― 手、指
25	身体部位別疾患各論 ― 骨盤、股関節①
26	身体部位別疾患各論 ― 骨盤、股関節②
27	身体部位別疾患各論 ― 下腿、足関節①
28	身体部位別疾患各論 ― 下腿、足関節②
29	まとめ
30	答案返却及びその解説授業

シラバス（授業計画書）

科目名（ リハビリテーション医学Ⅰ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2 年

1 授業の内容

リハビリテーションの概要と、各疾患における考え方について概説する。

2 到達目標

リハビリテーションの理念と各疾患に対する考え方を理解することができる。

3 授業の方法

PC プロジェクタを利用したパワーポイントによる講義のほか、講義毎に小テストを実施する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って、事前に教科書の予習・復習をしていくこと。

7 使用教材，教具

社団法人全国柔道整復学校協会 監修，リハビリテーション医学 改訂第3版，南江堂

8 学生へのメッセージ

柔道整復を学ぶ上で馴染みが薄いと思われるリハビリテーションの概念ですが，柔道整復師も施設で機能訓練士として働くこともできます。そのため患者様のよりよい日常生活や高いQOLの獲得に向けて，一緒にその概念や考え方を学びましょう。

9 教員氏名（ 高沢 浩太郎 ）

所 属（ 医療法人 栄寿会 真珠園療養所 ）

10 特記事項

通常教員による授業

科目名（ リハビリテーション医学 ）

回数	授業内容
1	リハビリテーションの理念、リハビリテーションの対象と障害者の実態
2	障害の階層とアプローチ
3	リハビリテーション医学の評価と理念
4	評価と診断（身体計測、関節運動と可動域）
5	評価と診断（ADL の評価、心理的評価）
6	評価と診断（認知症の評価）
7	評価と診断（電気生理学的検査）
8	評価と診断（画像診断）
9	評価と診断（運動失調）
10	リハビリテーションの医学の基礎医学（障害学）
11	リハビリテーションの医学の基礎医学（治療学）
12	リハビリテーション治療技術
13	リハビリテーションの実際
14	まとめ復習
15	定期試験の解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ リハビリテーション医学Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

高齢者に対するリハビリテーションの概要と、各疾患における考え方について概説する。

2 到達目標

高齢者リハビリテーションの理念と各疾患に対する考え方を理解することができる。

3 授業の方法

資料を配布し、スライドを用いた講義を中心に、機能訓練に関する内容を取り入れて座学を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って、事前に教科書の予習・復習をしてくること。

予習することで授業内容を理解しやすくなり、復習することで長期記憶につながります。

7 使用教材，教具

社団法人全国柔道整復学校協会 監修「リハビリテーション医学 改訂第4版」南江堂

8 学生へのメッセージ

リハビリテーションは臨床上とても重要な教科となります。

柔道整復師は整骨院だけでなく、機能訓練指導員として介護施設で働くことができる為、内容をしっかり理解し臨床で知識を発揮できるように、日々努力していきましょう。

9 教員氏名（ 川嶋 奈々美 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名（ リハビリテーション医学Ⅱ ）

回数	授業内容
1	高齢者のリハビリテーション 平均寿命と健康寿命
2	Bフレイル
3	Bフレイル ― ロコモティブシンドローム
4	要介護状態の予防①
5	要介護状態の予防②
6	要介護状態の予防③
7	地域リハビリテーション
8	高齢者の自立支援 （ポジショニング、車椅子シーティング）
9	高齢者の自立支援 （口腔ケア、栄養状態の改善）
10	高齢者の自立支援 （閉じこもり予防、認知症高齢者への支援）
11	機能訓練指導員の定義、 機能訓練指導員の知識①
12	機能訓練指導員の知識①
13	機能訓練指導員の知識②
14	機能訓練指導員の知識③
15	定期試験の解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 関係法規 ）

学科名 スポーツ柔整科
学年 2年

1 授業の内容

柔道整復師の業務の基盤となる法規を学ぶ。併せて、関連する医療職種の身分法規も学ぶ。担当講師の実務経験を取り入れた、臨床面でのコンプライアンス遵守につながる内容を取り入れる。

2 到達目標

自己の職業として実践する業務を遂行する上で、法規を遵守することが重要であることを認識する。

3 授業の方法

教科書・配布資料を利用した講義

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿った教科書を復習し、不明な点は質問し、確実に理解するように努めてください。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「関係法規」医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

真のプロフェッショナルとして職を遂行できるように、日々の学習を怠らないようにしてください。

9 教員氏名（ 中野 仁 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所にて施術管理者としての実務経験あり。 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業

科目名（ 関係法規 ）

回数	授業内容
1	序論：法の意義・体系・柔道整復に関する法規・患者の権利
2	柔道整復師と患者の権利、医療事故・医療過誤とリスクマネジメント
3	柔道整復師法 第1章：総則
4	柔道整復師法 第2章：免許、第3章：国家試験
5	柔道整復師法 第4章：業務
6	柔道整復師法 第5章：施術所
7	柔道整復師法 第6章：雑則
8	柔道整復師法 第7章：罰則
9	指定登録機関及び指定試験機関
10	医療従事者の資格法
11	医療法
12	社会福祉関係法規
13	社会保険関係法規（1）
14	社会保険関係法規（2）、その他の関係法規（個人情報保護法）
15	試験返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 衛生学・公衆衛生学 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

医療人として不可欠な知識である衛生学・公衆衛生学の基本を学ぶ。

2 到達目標

それぞれの授業について、各々のテーマについて簡単に説明できること。

3 授業の方法

教科書に従って授業を進める。

4 成績評価方法・基準

定期試験（100％）

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

事前に教科書の予習、復習をしてくること。予習することにより、授業内容を理解することができ、知識が深まる。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会編「衛生学・公衆衛生学」南江堂

8 学生へのメッセージ

教科書は読んで分からない事がありますが、授業が進むうちに理解が深まる。

9 教員氏名（ 松永 省三 ）

所 属（ マツナガ歯科 ）

10 特記事項

通常教員による授業

科目名（ 衛生学・公衆衛生学 ）

回数	授業内容
1	衛生学・公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動
2	健康の概念
3	疾病予防と健康管理
4	感染症の予防（総論）
5	感染症の予防（ウイルス感染症、細菌感染症）
6	感染症の予防（院内感染、予防接種）
7	消毒（総論）
8	消毒（消毒の種類と方法）
9	環境衛生（総論、環境問題、物理的・化学的要因）
10	環境衛生（公害、空気衛生、大気汚染）
11	生活環境、食品衛生活動（上水、下水など）
12	生活環境、食品衛生活動（栄養、廃棄物など）
13	疫学（意義と方法）
14	疫学（調査方法、バイアス）
15	答案返却および解説
16	母子保健（総論、母子保健指標）
17	母子保健（死産、小児保健、現状）
18	学校保健（総論、組織と運営）
19	学校保健（保健管理、保健教育）
20	産業保健（目的、職場の特徴）
21	産業保健（労働災害、職業病）
22	産業保健（物理、化学、作業様態による障害）
23	成人・高齢者保健（成人保健）
24	成人・高齢者保健（成人保健）
25	精神保健（精神保健の定義、病気）
26	地域保健と国際保健（地域保健）
27	地域保健と国際保健（WHO 活動）
28	衛生行政と保健医療の制度
29	医療の倫理と安全の確保
30	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

- ①技能内容（基本動作、対人的技能、試合）
- ②態度の内容（伝統的な行動の仕方、社会的態度）
- ③学び方の内容（課題の解決の仕方）

2 到達目標

柔道審査項目合格

3 授業の方法

- 第1ステージ 基本動作の習得、得意技を身に付ける
- 第2ステージ 形、試合を学び柔道実技審査合格

4 成績評価方法・基準

実技 100%

5 評価の際の特記事項

競技目的の柔道を教育するものではなく、機能的特性、構造的特性を育てたいと考えているので、実技試験並びに真面目に授業に参加する姿勢を評価する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実技練習は危険の為、プリントを配布して柔道の基礎的知識を学んでもらう。

7 使用教材，教具

柔道事故データブック、柔道の安全指導、柔道の授業作り、柔道の形、講道館形、技DVDなど

8 学生へのメッセージ

武道固有の内容から、相手を尊重する態度や正しい礼法を学んでほしい。

9 教員氏名（ 宮田 哲弘 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

10 特記事項

通常教員による授業。

科目名（ 柔道Ⅱ ）

回数	授業内容
1	自然本体、自護本体、進退動作、受身、崩しの方法と方向等の復習
2	投げ技 — 手技（体落とし） 受身の必要性を理解させる
3	投げ技 — 手技（背負い投げ） 伝統的な行動の仕方
4	投げ技 — 腰技（大腰） 社会的態度、健康、安全にかかわる態度
5	投げ技 — 腰技（釣り込み腰） すかし技
6	投げ技 — 腰技（払い腰） 柔道着カラー化の歴史的流れ
7	投げ技 — 腰技（跳ね腰） 山嵐
8	投げ技 — 足技（膝車） 日本書記に記された柔道と相撲の起源
9	投げ技 — 足技（支え釣り込み足） 柔道と柔術の違い
10	投げ技 — 足技（大外刈り） 柔道着の規格
11	投げ技 — 足技（大内刈り） 柔道事故と防ぎ方
12	投げ技 — 足技（小内刈り） 初段を取る為には
13	投げ技 — 足技（出足払い） 投げ技から投げ技への変化技
14	技 — 内股 投げ技から固め技への変化技 前期まとめ
15	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道Ⅲ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

- ①技能内容（応用動作、対人的技能、試合）
- ②態度の内容（伝統的な行動の仕方、社会的態度）
- ③認定実技審査要領

2 到達目標

柔道審査項目合格

3 授業の方法

- 第1ステージ 基本動作の習得、得意技を身に付ける
- 第2ステージ 形、試合を学び柔道実技審査合格
- 第3ステージ 礼儀作法

4 成績評価方法・基準

実技 100%

5 評価の際の特記事項

競技目的の柔道を教育するものではなく、機能的特性、構造的特性を育てたいと考えているので、実技試験並びに真面目に授業に参加する姿勢を評価する

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実技練習は危険の為、プリントを配布して柔道の基礎的知識を学んでもらう。

7 使用教材，教具

柔道事故データブック、柔道の安全指導、柔道の授業作り、柔道の形、講道館形、技DVDなど

8 学生へのメッセージ

武道固有の内容から、相手を尊重する態度や正しい礼法を学んで認定実技審査にむきあってほしい。

9 教員氏名（ 宮田 哲弘 ）

所 属（ ところ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

10 特記事項

通常教員による授業

科目名（ 柔道Ⅲ ）

回数	授業内容
1	技 ― 送り足払い 前足から後足の体重移動
2	技 ― 隅落とし 移動打込
3	技 ― 足車 追込み打込
4	打込の応用、連続掛
5	乱取と組み手のポイント 相四つとケンカ四つ
6	試合の基本的ルーツ
7	試合のルール 試合について
8	試合のルール 試合場について
9	試合のルール 技の判定について
10	試合のルール 反則について
11	試合のルール 反則になる禁止行為について
12	試合のルール 講道館審判規定 国際審判規定
13	試合のルール 講道館審判規定 国際審判規定
14	試合のルール 少年ルール 審判の合図 後期まとめ
15	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅴ ）

— 外傷の保存療法 —

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

柔道整復師として備えるべき外傷性疾患への対応能力の強化を図るため、外傷の保存療法を知り、下肢骨折の各論を通じ、外傷の経過及び治癒判断の基礎を学ぶ。担当講師の実務経験をもとに臨床現場での対応も要所に取り入れて行う。

2 到達目標

外傷の保存療法の基礎を学習し、治癒判定の判断力を身につける。

下肢骨折の各論を学習し、各損傷の保存療法の方法とその限界を知る。

3 授業の方法

教科書に準じて、板書を基本に授業を進める。また、適宜必要に応じて参考資料の配布を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業の復習により長期記憶に置き換わるため教科書を反復学習し、わからない部分を無くしていくことを推奨する。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・実技編」（改訂第2版）南江堂

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）南江堂

8 学生へのメッセージ

柔道整復師の仕事を理解するためには、専門分野の知識を身につける必要があります。理解を深めるためにも授業に集中し、不明な点は後回しせずにその都度質問をするように心掛けてください。

9 教員氏名（ 梅崎 航 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所において施術者として実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

1 1 科目名 (基礎柔道整復学Ⅴ)

回数	授業内容
1	運動器系の疼痛を訴える場合の施術 — 損傷の観察：観察および問診①
2	触診 — 腫脹の硬さに触れる、筋の硬さに触れる
3	機能的診察 — 可動域制限の有無、動作に伴う疼痛、トリックモーション
4	鑑別診断、合併症の有無を判定、説明と同意、治癒の判定
5	骨盤骨骨折①
6	骨盤骨骨折②
7	大腿骨骨折①
8	大腿骨骨折②
9	大腿骨骨折③
10	大腿骨骨折④
11	膝蓋骨骨折、下腿骨骨折①
12	下腿骨骨折②
13	下腿骨骨折③
14	下腿骨骨折④
15	試験解説
16	前期の復習
17	足根骨骨折①
18	足根骨骨折②
19	足根骨骨折③
20	中足骨骨折
21	足趾骨骨折
22	股関節脱臼①
23	股関節脱臼②
24	膝蓋骨脱臼、膝関節脱臼①
25	膝関節脱臼②
26	足部の脱臼①
27	足部の脱臼②
28	まとめ復習①
29	まとめ復習②
30	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

上肢の骨折（上腕骨近位～から手指骨）、上肢の脱臼の各論を学習する。

担当講師の実務経験をもとに、各損傷への対応も学ぶ。

2 到達目標

柔道整復師として上肢の各部位の骨折及び上肢の各関節の脱臼の診察、保存療法の
施術につながるように、理論を詳細に学習し、理解し、施術の限界も知る。

3 授業の方法

教科書に準じて、板書を基本に授業を進める。また、適宜必要に応じて参考資料の
配布を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業の復習により長期記憶が身につくため教科書を反復学習し、わからない部分を
無くしていくことを推奨する。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）南江堂

8 学生へのメッセージ

覚えることが多い科目ですが国家試験の出題頻度も高いので、知識と理解を深めて
いきましょう。

9 教員氏名（ 梅崎 航 ）

所 属（ ところ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ： 柔道整復師施術所において施術者として実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

1 1 科目名 (臨床柔道整復学Ⅱ)

回数	授業内容
1	F 前腕骨近位部の骨折①
2	F 前腕骨近位部の骨折②
3	G 前腕骨骨幹部骨折①
4	G 前腕骨骨幹部骨折②
5	G 前腕骨骨幹部骨折③
6	H 前腕骨遠位部の骨折①
7	H 前腕骨遠位部の骨折②
8	H 前腕骨遠位部の骨折③
9	I 手根骨骨折①
10	I 手根骨骨折②
11	J 中手骨部の骨折①
12	J 中手骨骨折②
13	まとめ復習①
14	まとめ復習②
15	答案返却および解説
16	K 指骨の骨折①
17	K 指骨の骨折②
18	上肢の脱臼 — A 鎖骨の脱臼①
19	A 鎖骨の脱臼②
20	B 肩関節脱臼①
21	B 肩関節脱臼②
22	B 肩関節脱臼③
23	C 肘関節の脱臼①
24	C 肘関節の脱臼②
25	D 手関節部の脱臼①
26	D 手関節部の脱臼②
27	E 手根中手関節脱臼 F 中手指関節、指節間関節の脱臼①
28	F 中手指関節、指節間関節の脱臼②
29	まとめ復習
30	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅲ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

上肢、下肢の軟部組織損傷の各論を学習する。担当教員の実務経験による各損傷の臨床上の留意点を取り入れて講義する。

2 到達目標

各損傷の発生機序、分類、臨床症状を理解し、柔道整復師の業務範囲内外を明確にすることで、臨床力の基礎を修得することを目標とする。

3 授業の方法

板書を基本に、スライドや資料を用いて進める。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業毎に進度計画に沿った教科書の予習、復習を行うこと。

特にノートの転帰事項の整理、配布プリントの整理を怠らないこと。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会編「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）南江堂

8 学生へのメッセージ

各損傷の発生機序や症状、治療法の基礎を学ぶので、1回の欠席もないようにしましょう。理解しづらい用語や、理論の内容があれば、質問し確実に理解してください。

9 教員氏名（ 久野 貴史 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所で施術管理者としての実務経験あり。）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅲ ）

回数	授業内容
1	上肢の軟部組織損傷 ― A 肩関節部の軟部組織損傷①
2	A 肩関節部の軟部組織損傷②
3	A 肩関節部の軟部組織損傷③
4	A 肩関節部の軟部組織損傷④ B 上腕部の軟部組織損傷①
5	B 上腕部の軟部組織損傷② C 肘関節部の軟部組織損傷①
6	C 肘関節部の軟部組織損傷②
7	D 前腕部の軟部組織損傷①
8	D 前腕部の軟部組織損傷②
9	E 手関節部の軟部組織損傷①
10	E 手関節部の軟部組織損傷②
11	F 手部、指部の軟部組織損傷①
12	F 手部、指部の軟部組織損傷②
13	F 手部、指部の軟部組織損傷③
14	まとめ復習
15	試験解説、前期復習
16	下肢の軟部組織損傷 ― A 股関節の軟部組織損傷①
17	A 股関節の軟部組織損傷②
18	B 大腿部の軟部組織損傷①
19	B 大腿部の軟部組織損傷②
20	C 膝関節部の軟部組織損傷①
21	C 膝関節部の軟部組織損傷②
22	C 膝関節部の軟部組織損傷③
23	D 下腿部の軟部組織損傷①
24	D 下腿部の軟部組織損傷②
25	E 足関節部の軟部組織損傷①
26	E 足関節部の軟部組織損傷②
27	F 足・趾部の軟部組織損傷①
28	F 足・趾部の軟部組織損傷②
29	まとめ復習
30	試験解説、後期復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅳ ）

— 高齢者の外傷予防 —

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

高齢者の身体の生理的、機能的特徴を理解し、高齢者に発生頻度の高い外傷について、その発生原因と予防について、担当教員の施術管理者として20年間で体験した高齢者への施術例を参考に学ぶ。

2 到達目標

柔道整復術を基本に、機能訓練指導やリハビリテーションからみた、高齢者の外傷予防の知識を修得する。

3 授業の方法

実習室において実技実習を行い、施術法を体得する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80% 授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

欠席回数、容姿（実習着、髪色、爪など）、衛生材料の管理を授業態度として評価します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進行計画を参考に、事前に内容を確認、予習をする。実習で学んだ実技内容を必ず復習する時間をつくること。繰り返しの実技演習が技術を修得す上で重要なことを認識すること。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復師と機能訓練指導」 南江堂

全国柔道整復学校協会監修 「競技者の外傷予防」 医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

- ・柔道整復師が高齢者に関わる施術について、高齢者の身体的特徴や外傷を学び、その外傷予防の知識を身につけてください。
- ・実習着は常に清潔に、爪は短くし、装飾品（指輪、ピアスなど）は全て外すこと。
- ・女子は髪を後ろにまとめてください。

9 教員氏名（ 中野 仁 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所にて施術管理者としての実務経験あり。 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業

科目名（ 柔道整復実技Ⅳ ）

回数	授業内容
1	高齢者の身体的特徴：生理学的特徴
2	ロコモティブシンドロームとは
3	ロコモティブシンドロームと運動器不安定症との相違，ロコチェック
4	ロコモーショントレーニング
5	高齢者の転倒予防
6	機能訓練指導員，介護予防・機能訓練指導員認定柔道整復師
7	リハビリテーションと機能訓練の相違
8	機能訓練の対象となる障害の捉え方
9	高齢者の疾患の特徴
10	高齢者に多い外傷
11	高齢者の外傷予防
12	高齢者への施術の限界
13	機能訓練で提供する運動と要点
14	まとめ復習
15	試験解説、まとめ復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅴ ）

－ 競技者の外傷予防 －

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

競技者の外傷予防について、運動生理学を理解しながら、スポーツ外傷や障害の予防法を理論とその実際を、担当教員の施術管理者として20年間で体験した、競技者への施術例を参考に学ぶ。

2 到達目標

各種競技の特徴を学びながら、運動生理学の理論を理解し、好発する各損傷を知り、それらの予防法の基礎を修得する。

3 授業の方法

理論学習は教室で、実技実習は実習室において実施します。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80% 授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

欠席回数、容姿（実習着、髪色、爪など）、衛生材料の管理を評価に加味します。

6 授業時間外学習

授業進行計画を参考に、事前に内容を確認、予習をする。実習で学んだ実技内容を必ず復習する時間をつくること。繰り返しの実技演習が技術を修得す上で重要なことを認識すること。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会監修 「競技者の外傷予防」 医歯薬出版
資料配布

8 学生へのメッセージ

- ・専門基礎医学である生理学の理解と、運動学で引用される解剖学の理解度が求められるので、各科目の予習と復習をするようにしてください。
- ・実習着は常に清潔にし、爪は短くし、装飾品（指輪、ピアスなど）は全て外してください。女子は髪を後ろにまとめてください。

9 教員氏名（ 中野 仁 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ： 柔道整復施術所において施術管理者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業。

1 1 科目名（柔道整復実技Ⅴ）

回数	授業内容
1	運動生理学の概要 ― 運動が生体に与える影響 運動のメリット
2	運動のエネルギー代謝 ― 無酸素性エネルギー供給機構
3	有酸素性エネルギー供給機構
4	無酸素性エネルギー供給機構
5	運動と呼吸・循環 ― 呼吸、酸素摂取量、循環
6	運動とホルモン
7	競技者の運動生理学的特徴
8	外傷の発生原因 ― 内因要因、外的要因
9	外傷の予防対策
10	競技者の外傷予防のための実技 メディカルチェック（評価と測定）①
11	競技者の外傷予防のための実技 メディカルチェック（評価と測定）②
12	外傷予防に必要なコンディショニングの方法と実際①
13	外傷予防に必要なコンディショニングの方法と実際②
14	種目別の外傷予防とその実際
15	試験解説、まとめ復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅵ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

臨床上発生頻度の高率な骨折、脱臼、軟部組織損傷の診察法、整復法及び検査法の基本手順を理解し、実技実習を通して学習する。担当教員の実務経験で得た各損傷に対する対応も学ぶ。

2 到達目標

各損傷の特徴、発生機序や症状を理解し、それらの診察手順、整復や検査法の基礎を、実技をとおして学習し、柔道整復術の基本を身につけることを目標とする。

3 授業の方法

相互に施術者と患者になりながら、診察法、整復法、固定法、検査法をロールプレイを通して行う。必要に応じて資料を配布する。

4 成績評価方法・基準

実技試験 100%

5 評価の際の特記事項

身だしなみ・挨拶・言葉遣いも評価の対象となります。

また、授業中の許可がないスマートフォンなどの電子機器の使用は減点対象です。

6 授業時間外学習（予習・復習等）

柔道整復学の理論編と関連付けて理解を深めてください。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・実技編」（改定第2版）南江堂
配布資料

8 学生へのメッセージ

- ・1年次で学習した各損傷の総論、診察法、施術方法の基礎技術を身に付けましょう。
- ・臨床力を身に付けるために、医療面接、患者への対応なども実践できるように、ロールプレイングを通して学びましょう。
- ・理解の足りない個所があれば、いつでも質問するように心がけてください。
- ・実習着は常に清潔を心がけてください。爪は短くし、装飾品（指輪・ピアスなど）は全て外してください。女子は髪を後ろにまとめるようにしてください。

9 教員氏名（ 本田 光太郎 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所において施術者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 柔道整復実技Ⅵ ）

回数	授業内容
1	肩鎖関節上方脱臼 診察法，整復法
2	肩鎖関節上方脱臼 固定法（ロバート・ジョーンズ絆創膏固定）
3	肩鎖関節上方脱臼 1度、2度、3度損傷の固定法
4	肩関節前方烏口下脱臼 診察法，整復法（コッヘル法）
5	肩関節前方烏口下脱臼 整復法（ヒポクラテス法、ゼロポジション法）
6	肩関節前方烏口下脱臼 固定法①
7	肩関節前方烏口下脱臼 固定法②
8	肘関節後方脱臼 診察法，整復法（第1法）
9	肘関節後方脱臼 整復法（第2法） 固定法（金属クラーメル副子固定）
10	肘関節後方脱臼 固定法②
11	肘内障 診察法，整復法
12	第2指 PIP 背側脱臼 診察法，整復法，固定法
13	まとめ復習①
14	まとめ復習②
15	試験解説、前期復習
16	肩関節の軟部組織損傷 腱板損傷 診察法，検査法
17	肩関節の軟部組織損傷 腱板損傷 検査法
18	肩関節の軟部組織損傷 上腕二頭筋長頭腱損傷 診察法，検査法
19	膝関節側副靭帯損傷 診察法，検査法
20	膝関節十字靭帯損傷 診察法，検査法
21	膝関節半月板損傷 診察法，検査法
22	膝関節軟部組織損傷 テーピング固定法①
23	膝関節軟部組織損傷 テーピング固定法②
24	足関節外側靭帯損傷 診察法、固定法（厚紙副子固定）①
25	足関節外側靭帯損傷 診察法、固定法（厚紙副子固定）①
26	足関節の軟部組織損傷 テーピング固定①
27	足関節の軟部組織損傷 テーピング固定②
28	まとめ復習①
29	まとめ復習②
30	試験解説、前期復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅶ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

臨床上発生頻度の高率な骨折，脱臼，軟部組織損傷の診察法，整復法及び検査法の基本手順を理解し，担当教員の実務経験で得た臨床技術を、実技実習をとおして学習する。

2 到達目標

各損傷の特徴，発生機序や症状を理解し，それらの診察手順，整復や検査法の基礎を，実技をとおして学習し，柔道整復術の基本を身につけることを目標とする。

3 授業の方法

相互に施術者と患者になりながら，診察法，整復法，固定法，検査法を行う。

4 成績評価方法・基準

実技試験 100%

5 評価の際の特記事項

身だしなみ・挨拶・言葉遣いも評価の対象となります。

6 授業時間外学習（予習・復習等）

柔道整復学の理論編と関連付けて理解を深めてください。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・実技編」（改定第2版）南江堂

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編」（改定第7版）南江堂

配布資料

8 学生へのメッセージ

- ・1年次で学習した各損傷の総論，診察法，施術方法の基礎技術を身に付けましょう。
- ・臨床力を身に付けるために，医療面接，患者への対応なども実践できるように，ロールプレイングをとおして学びましょう。
- ・理解の足りない個所があれば，いつでも質問するように心がけてください。
- ・実習着は常に清潔を心掛けてください。爪は短くし，装飾品（指輪，ピアスなど）は全て外してください。女子は髪を後ろにまとめるようにしてください。

9 教員氏名（ 久野 貴史 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所で施術管理者としての実務経験あり。）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 柔道整復実技Ⅶ ）

回数	授業内容
1	鎖骨定形的骨折 診察法、整復法
2	鎖骨定形的骨折 整復法（坐位整復法） 固定法（デゾー包帯固定法）
3	鎖骨定型的骨折 整復法（臥位整復法） 固定法（リング固定法，8字帯）
4	鎖骨定型的骨折 固定法（セイヤー絆創膏固定法，厚紙副子固定法）
5	鎖骨定型的骨折 整復法、固定法
6	上腕骨外科頸外転型骨折 診察法，整復法
7	上腕骨外科頸外転型骨折 診察法，整復法、固定法①
8	上腕骨外科頸外転型骨折 固定法②
9	上腕骨骨幹部骨折（三角筋付着部より遠位骨折）固定法①
10	上腕骨骨幹部骨折（三角筋付着部より遠位骨折）固定法②
11	コーレス骨折 診察法，整復法（牽引直圧整復法）
12	コーレス骨折 診察法，整復法（屈曲整復法）
13	コーレス骨折 固定法①
14	コーレス骨折 固定法②
15	試験解説、前期復習
16	肋骨骨折 診察法、固定法①
17	肋骨骨折 診察法、固定法②
18	第5中手骨頸部骨折 診察法、整復法、固定法①
19	第5中手骨頸部骨折 診察法、整復法、固定法②
20	下腿骨幹部骨折 固定法
21	大腿部打撲 診察法、検査法、初期処置①
22	大腿部打撲 診察法、検査法、初期処置②
23	大腿四頭筋肉ばなれ損傷 診察法、検査法、初期処置①
24	大腿四頭筋肉ばなれ損傷 診察法、検査法、初期処置②
25	ハムストリングス筋肉ばなれ 診察法、検査法、初期処置①
26	ハムストリングス筋肉ばなれ 診察法、検査法、初期処置②
27	下腿三頭筋肉ばなれ損傷 診察法、検査法
28	アキレス腱断裂 診察法、検査法、固定法
29	まとめ復習
30	試験解説、前期復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床実習Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

臨床実習施設において、実務経験 5 年以上の臨床実習指導者の指導のもと、見学実習を主体とした臨床実習を行う。

2 到達目標

- ・臨床現場における適切な行動・態度、そして責任感を修得することを目指す。
- ・施術および施術所の運営（予約システム、受付、会計、スタッフとのコミュニケーション等）についても見学する。

3 授業の方法

- ・各臨床実習施設の臨床実習指導者の指示のもと、臨床現場に即した行動を実践する。
- ・実際の施術の現場や、関連する仕事の様子を見学する。一連の業務内容を理解して柔道整復師としての基本的姿勢を身に付ける。
- ・臨床実習は異なる施設で実施される。臨床実習施設へは各自が公的交通手段を利用し、決められた開始時間の 20 分前には施設に到着し、10 分前には着替えを終了しなければならない。

4 成績評価方法・基準

出席、実習記録、レポート等の提出物、各指導者による評価を総合して最終評価とする。

5 評価の際の特記事項

毎回のレポート提出は評価の基準となる。

6 授業時間外学習

日々、臨床実習に必要な基礎知識（専門基礎科目、専門科目）を学習する。

7 使用教材、教具

「実習の手引き」

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編第 7 版」

8 学生へのメッセージ

- ・資格取得後、就職先で実務を実践することを念頭に置いて体験、学習しましょう。
- ・時間厳守、コンプライアンスを実践し、自己責任を持って行動してください。
- ・体調不良や交通機関のトラブルなどで欠席、遅刻する場合は、必ず担当教員に連絡をしてください。無断欠席や遅刻は評価に影響します。

9 教員氏名（ 担当教員：本田 光太郎 実習調整者：中野 仁 ）

所 属（ ところ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復施術所での施術者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

実務経験を有する教員が臨床実習調整者となり、臨床実習指導者が現地で担当する。

臨床実習指導者は、「柔道整復師専科教員」の有資格者、または、「臨床実習指導者講習会」受講修了者に限る。

1 1 科目名（ 臨床実習Ⅱ ）

回数	
	8月～9月の間で，5日～9日間（45時間）の臨床実習を行う。

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床実習Ⅲ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

臨床実習施設において、実務経験 5 年以上の臨床実習指導者の指導のもと、見学実習を主体に、一部参加型とした臨床実習を行う。

2 到達目標

- ・臨床現場における適切な行動・態度、そして責任感を修得することを目指す。
- ・施術および施術所の運営（予約システム、受付、会計、スタッフとのコミュニケーション等）についても見学する。

3 授業の方法

- ・各臨床実習施設の臨床実習指導者の指示のもと、臨床現場に即した行動を実践する。
- ・実際の施術の現場や、関連する仕事の様子を見学する。一連の業務内容を理解して柔道整復師としての基本的姿勢を身に付ける。
- ・臨床実習は異なる施設で実施される。臨床実習施設へは各自が公的交通手段を利用し、決められた開始時間の 20 分前には施設に到着し、10 分前には着替えを終了しなければならない。

4 成績評価方法・基準

出席、実習記録、レポート等の提出物、各指導者による評価を総合して最終評価とする。

5 評価の際の特記事項

毎回のレポート提出は評価の基準となる。

6 授業時間外学習

日々、臨床実習に必要な基礎知識（専門基礎科目、専門科目）を学習する。

7 使用教材、教具

「実習の手引き」

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編第 7 版」南江堂

8 学生へのメッセージ

- ・資格取得後、就職先で実務を実践することを念頭に置いて体験、学習しましょう。
- ・時間厳守、コンプライアンスを実践し、自己責任を持って行動してください。
- ・体調不良や交通機関のトラブルなどで欠席、遅刻する場合は、必ず担当教員に連絡をしてください。無断欠席や遅刻は評価に影響します。

9 教員氏名（ 担当教員：本田 光太郎 実習調整者：中野 仁 ）

所 属（ ところ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復施術所での施術者としての実務経験あり。 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

実務経験を有する教員が臨床実習調整者となり、臨床実習指導者が現地で担当する。

臨床実習指導者は、「柔道整復師専科教員」の有資格者、または、「臨床実習指導者講習会」受講修了者に限る。

1 1 科目名（ 臨床実習Ⅲ ）

回数	
	2月～3月の間で，5日～9日間（45時間）の臨床実習を行う。

シラバス（授業計画書）

科目名（ 解剖生理学 ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 3 年

1 授業の内容

人体の基本的な仕組みについて、解剖学と生理学を統合して総合的に理解する。

2 到達目標

1年次・2年時に学習した解剖学、生理学を基本に、さらなる理解力と応用力を身につけるために学習し、人体の仕組みの基本的な用語について詳細に説明できるようになることを目標とする。

3 授業の方法

資料プリントを配付し、スライドと板書で行う。理解度の確認のため適宜小テストを行う。

4 成績評価方法・基準

小テスト成績 30%，期末試験成績 70%の割合で、総合的に中間評価と後期末評価を行う。

5 評価の際の特記事項

中間評価と後期末評価の両方に合格しなければならない。中間評価で合格点に達しなかった場合には、後期末試験時にも再度試験を実施する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

基本的な解剖学、生理学の授業内容も合わせて予習復習する。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会編「解剖学」（改定第2版） 医歯薬出版

全国柔道整復学校協会編「生理学」（改定第4版） 南江堂

8 学生へのメッセージ

解剖学や生理学で理解が難しい内容があれば、特に取り上げて解説する。

9 教員氏名（ 山邊 芳久 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 柔道整復科 ）

10 特記事項

通常教員による授業

科目名（ 解剖生理学 ）

回数	授業内容
1	解剖生理学について
2	細胞の構造と細胞活動
3	血液
4	心臓と血管
5	血圧調節
6	呼吸運動
7	呼吸とガス交換
8	消化活動
9	吸収活動
10	栄養の代謝・体温
11	尿の生成と体液
12	内分泌 ホルモンの性質と特徴
13	内分泌 ホルモンと体液調節
14	まとめ
15	答案返却と解説
16	生殖
17	骨代謝と体液調節
18	神経細胞
19	神経系 脊髄
20	神経系 脳幹・小脳
21	神経系 自律神経系
22	神経系 大脳基底核 大脳皮質
23	神経系 高次脳機能
24	骨と筋 筋収縮
25	骨と筋 強縮とエネルギー
26	感覚 受容器と適刺激
27	感覚 感覚伝導路
28	解剖生理学のまとめ
29	まとめ
30	答案返却と解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 高齢者の生理学的特徴・変化 ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 3 年

1 授業の内容

通常の生理学は青年期・壮年期の平均的な人間の状態を基本としている。ところが、柔道整復師が対象とする相手は高齢者も少なくないため、その方々の特性について概観する。

2 到達目標

高学年になって高齢者と競技者の特性を本格的に学習する前の基本的なポイントとなる概念について把握する。

3 授業の方法

教科書に沿って解説する。必要に応じてスライドの使用や補足資料の配付を行う。
また、理解度の確認のため適宜、授業内で小テストを実施する。

4 成績評価方法・基準

小テスト成績 30%，定期試験成績 90%の割合で評価を行う。

5 評価の際の特記事項

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

基本的な解剖学，生理学および解剖生理学の授業の内容も合わせて予習復習する。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会編「生理学」（改定第4版） 南江堂

8 学生へのメッセージ

三世代家族が減少し，日常的に高齢者の生活に接する機会も減少している一方で医療従事者にとって高齢者の対応は今後ますます重要になってくる。青年期とは違った高齢者の生理的状态や能力の特性を理解するよう心がけてもらいたい。

9 教員氏名（ 山邊 芳久 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 柔道整復科 ）

10 特記事項

通常教員による授業

科目名（ 高齢者の生理学的特徴・変化 ）

回数	授業内容
1	高齢者とは
2	細胞の加齢現象 細胞老化・テロメア
3	生体膜と細胞内小器官の加齢現象 生体膜・ミトコンドリア
4	体内水分量の変化 体液・ナトリウム
5	加齢による臓器機能の変化（1） 神経系
6	加齢による臓器機能の変化（2） 運動器系 筋 骨
7	加齢による臓器機能の変化（3） 感覚器系（1） 視覚 聴覚
8	加齢による臓器機能の変化（4） 感覚器系（2） 嗅覚 味覚 前庭感覚
9	加齢による臓器機能の変化（5） 循環器系 呼吸器系
10	加齢による臓器機能の変化（6） 消化器系 皮膚
11	高齢者に多い疾患・障害（1） フレイル 認知症 骨粗鬆症
12	高齢者に多い疾患・障害（2） 転倒 睡眠障害
13	運動と加齢（1） 歩行機能
14	運動と加齢（2） 平衡機能 反応時間
15	解答解説 復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 競技者の生理学的特徴・変化 ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 3 年

1 授業の内容

通常の生理学は青年期・壮年期の平均的な人間の状態を基本としている。ところが、成長期から成人期にかけての継続した運動状況によって、個人の生理的状态や能力は個別に変化がみられる。柔道整復師として理解しておくべきそれらの特性を概観する。

2 到達目標

高学年になって高齢者と競技者の特性を本格的に学習する前の基本的なポイントとなる概念について把握する。

3 授業の方法

教科書に沿って解説する。必要に応じてスライドの使用や補足資料の配付を行う。
また、理解度の確認のため適宜、授業内で小テストを実施する。

4 成績評価方法・基準

小テスト成績 30%，定期試験成績 70%の割合で評価を行う。

5 評価の際の特記事項

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

基本的な解剖学，生理学および解剖生理学の授業の内容も合わせて予習復習する。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会編「生理学」（改定第4版） 南江堂

8 学生へのメッセージ

運動に伴う平均から外れた体格・体型や生理的能力を意識するよう心がけ，逆に平均的な状態の理解にも結びつけるよう心がけよう。

9 教員氏名（ 山邊 芳久 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 柔道整復科 ）

10 特記事項

通常教員による授業

科目名（ 競技者の生理学的特徴・変化 ）

回数	授業内容
1	小児期から青年期の発育曲線 スキャモンの発育曲線
2	身長が発育 体重が発育
3	骨が発育 筋が発育 筋力が発達
4	呼吸循環系機能と運動 呼吸機能 心臓の発達
5	発育期の運動不足・過運動
6	トレーニングの三大原理 五大原則
7	骨の病気 使い過ぎ症候群
8	運動の発達と習熟 歩行と走行 持久力の発達
9	競技者の体格 身体組成 骨密度
10	競技者の生理学的特徴・変化 競技者の骨格筋
11	競技者の心理機能
12	姿勢調節能力の変化 競技による姿勢調節の特性
13	姿勢調節トレーニングと転移 眼球運動と姿勢制御
14	まとめ復習
15	解答解説 総復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 一般臨床医学Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

診察（視診、問診、聴診、触診など）、生命徴候の測定・検査（生理機能検査など）について学修する。主要な疾患の病態、検査法、治療法、予後について学修し、一般臨床医学の理解を深める。

2 到達目標

柔道整復師の臨床に必要な知識として、基本的な診察や検査法、主要な疾患について学修し、国家試験に対応できると共に、臨床に応用できることを目標とする。

3 授業の方法

プリントを配布し、適宜追加資料を配布し理解を促す。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80%、授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

授業態度は、出席頻度や受講態度を総合的に評価する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

事前に教科書を予習・復習することで、理解が深まる。疑問に思ったところは積極的に教員に質問すること。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「一般臨床医学」（改訂第3版）医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

医療者として、専門分野だけでなく合併している種々の疾患について理解することは、患者さんへの全人的なアプローチに繋がります。是非興味を持って取り組んでください。

9 教員氏名（ 川上 恭 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

10 特記事項

通常教員による授業

1 1 科目名（ 一般臨床医学Ⅱ ）

回数	授業内容
1	診察概論、診察各論（医療面接）
2	診察各論 視診・打診・聴診・触診・生命徴候
3	診察各論 感覚検査・反射検査
4	検査法 生命徴候の測定・生理機能検査・検体検査・各検査の基準値
5	疾患各論 呼吸器疾患
6	疾患各論 循環器疾患
7	疾患各論 消化器疾患
8	疾患各論 代謝・栄養疾患
9	疾患各論 内分泌疾患
10	疾患各論 血液疾患
11	疾患各論 腎・尿路疾患
12	疾患各論 神経疾患
13	疾患各論 感染症
14	疾患各論 リウマチ・膠原病・アレルギー・環境要因による疾患
15	試験解説 まとめ復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復術の適応 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1. 授業の内容

柔道整復師の適応範囲を理解し、適切な鑑別が実施できるように、
整形外科疾患および内科的疾患を知り、鑑別方法を学ぶことを目的とする。

2. 到達目標

臨床症状の類似点を理解し、正しい判断ができるように各疾患と柔道整復術の
業務範囲内か業務範囲外かを適切に鑑別できるように、理解力を深める。

3. 授業の方法

プリントを配布後、パワーポイントを使用しての講義を行う。

4. 成績評価方法・基準

定期試験（100％）

5. 評価の際の特記事項

特になし。

6. 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業時に話したポイントに関してはこまめに復習し、覚えるようにしてください。

7. 使用教材

全国柔道整復学校協会監修「施術の適応と医用画像の理解」 南江堂

8. 学生へのメッセージ

施術を行う上で、業務範囲についての知識と自覚がなければなりません。特に、柔道
整復師は健康保険等を利用して受診する患者に対して、適切な対応が求められます。
したがって、それらの基礎的な知識を学ぶ大切な授業なので、不明な点は必ず質問し
て、少しずつ理解できるように努力しましょう。

9. 教員名（ 川上 恭 ）

所 属 （ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

10. 特記事項

通常教員による授業

科目名（ 柔道整復術の適応 ）

回数	授業内容
1	患者の状況の的確な把握・鑑別
2	問診、触診の検査結果等による受傷状況の把握・鑑別
3	症状により、専門医受診に対する判断
4	整形外科的疾患との鑑別（１）
5	整形外科的疾患との鑑別（２）
6	整形外科的疾患との鑑別（３）
7	整形外科的疾患との鑑別（４）
8	ここまでの復習・まとめ
9	内科的疾患との鑑別（１）
10	内科的疾患との鑑別（２）
11	柔道整復師が行える救急処置
12	多発性外傷患者への救急処置（災害を想定）
13	災害時での医師との連携
14	患者および家族に対する説明、患者の生活習慣と生活環境及び仕事に留意した指導
15	試験返却・解説、まとめ復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 職業倫理 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の概要

柔道整復師としての倫理，マナー，コンプライアンスの基本を学習する。

2 到達目標

- ・ 柔道整復師に求められる倫理，柔道整復師・施術所に対する信頼，柔道整復師としての社会貢献・社会奉仕について理解する。
- ・ 医療関係者として，また社会人として求められる倫理，マナーについて理解する。
- ・ 患者に接する際の心構え，患者の自己決定権の尊重，プライバシーの保護とインフォームドコンセントについて理解する。
- ・ 柔道整復師として，法令等を遵守し，併せて保険請求のルール，道徳や慣習を理解する。

3 授業の方法

教科書および適宜必要に応じて参考資料の配布をおこなう。

4 成績評価方法

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）

予習は教科書読み、解らない語句や読み方などを事前に調べておいてください。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「社会保障制度と柔道整復師の職業倫理」

医歯薬出版株式会社

8 学生へのメッセージ

近い将来，柔道整復師として仕事に就くうえで重要な基本理念を学習する授業です。
不明な点があるときは必ず質問をして，少しずつ理解を深めるように努力しましょう。

9 教員氏名（ 宮田 哲弘 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所で施術管理者としての実務経験あり。）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 職業倫理 ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション，授業内容の説明
2	柔道整復師としての倫理 ― 柔道整復師に求められる倫理とは
3	柔道整復師としての倫理 ― 柔道整復師が果たすべき役割
4	柔道整復師・施術所に対する信頼
5	柔道整復師としての社会貢献，社会奉仕
6	医療関係者・社会人としての倫理・マナー
7	医療関係者として求められる倫理
8	医療関係者としてのマナー
9	社会人としてのマナー
10	患者との接し方 ― 患者に接する際の心構え
11	患者の自己決定権の尊重
12	プライバシーの保護とインフォームドコンセント，守秘義務
13	コンプライアンス（法令遵守） ― 柔道整復師が守る法令
14	保険請求のルールへの遵守，道徳・慣習
15	定期試験解説、まとめ復習

シラバス（授業計画書）

科目名(柔道Ⅳ)

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1. 授業の内容

柔道整復養成施設指導要領の定める所による、卒業判定基準に達する為の実技能力の習得。

2. 到達目標

認定実技審査の柔道実技審査項目への合格を目標とする。

3. 授業の方法

柔道場での実技

4. 成績評価方法・基準

基本実技試験で評価するが、出席率・授業態度も加味する。

5. 評価の際の特記事項

授業態度とは、身だしなみ・適切な返事・適切な行動・周りに迷惑をかけないなどを評価に入れる。

6. 授業時間外学習

実技試験前の自己練習においては、必ず専任教員に申告して実施すること。
特に怪我などに留意し、練習後は清掃を行うこと。

7. 使用教材，教具

柔道授業づくり教本（全日本柔道連盟）など、資料を適宜配布する。

8. 学生へのメッセージ

相手を尊重し、怪我をしない、させないように集中して授業に取り組んで下さい。

9 教員氏名（ 宮田 哲弘 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

10 特記事項

通常教員による授業

科目名(柔道 IV)

回数	授業内容
1	ガイダンス、身体慣し、受身復習、投技復習
2	受身復習、打込み、投げ込み、約束練習、乱取り
3	形の練習（手技 — 浮落） 約束乱取
4	形の練習（手技 — 背負投） 約束乱取
5	形の練習（手技 — 肩車） 約束乱取
6	形の練習（腰技 — 浮腰） 約束乱取
7	形の練習（腰技 — 払腰） 約束乱取
8	形の練習（腰技 — 釣込腰） 約束乱取
9	形の練習（足技 — 送足払） 約束乱取
10	形の練習（足技 — 支釣込足） 約束乱取
11	形の練習（足技 — 内股） 約束乱取
12	形の練習（通し稽古）、約束乱取
13	形の練習（通し稽古）、約束乱取
14	通し稽古（礼法・受身・形・約束乱取）
15	試験結果発表、復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅳ ）

学科名 スポーツ柔整科

学 年 3 年

1 授業の内容

頭部，体幹，上肢の骨折の各論を復習し，特に臨床的に重要な知識を学習する。
担当教員の実務経験を具体例として挙げて説明し，臨床力の基礎を身につけさせる。

2 到達目標

各損傷の特徴をさらに理解し，診察法を基本に，損傷を明確に評価できる根拠を症状から読み取れる応用力を身につけることを目標とする。

3 授業の方法

演習問題を解きながら，復習を行っていく。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業の復習により長期記憶に置き換わるため教科書を反復学習し、わからない部分を無くしていくことを推奨する。

7 使用教材，教具

全国柔道整復師協会監修 「柔道整復学・理論編」（改定第7版）南江堂

8 学生へのメッセージ

国家試験合格も視野に入れ，自己の学習状況を常に分析し，学習計画をきちんと立て，それに沿った自己学習を心がけてください。

9 教員氏名（ 梅崎 航 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ： 柔道整復師施術所において施術者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅳ ）

回数	授業内容
1	頭部，顔面部の骨折 ① 頭蓋骨骨折，顔面頭蓋骨折
2	頭部，顔面部の骨折 ② 頭蓋骨骨折，顔面頭蓋骨折
3	頸椎の骨折、胸椎の骨折、腰椎の骨折 ①
4	頸椎の骨折、胸椎の骨折、腰椎の骨折 ②
5	胸部の骨折 － 肋骨骨折、胸骨骨折
6	上肢の骨折 － 鎖骨骨折（定型的骨折，整復法，固定法を除く）
7	肩甲骨の骨折
8	上腕骨近位端部の骨折 ①
9	上腕骨近位端部の骨折 ②
10	上腕骨骨幹部骨折
11	上腕骨遠位端部骨折 ①
12	上腕骨遠位端部骨折 ②
13	前腕骨近位端部骨折 ①
14	前腕骨近位端部骨折 ②
15	試験解説、前期復習
16	前腕骨骨幹部骨折
17	前腕骨遠位端部骨折 ① （コーレス骨折整復法，固定法を除く）
18	前腕骨遠位端部骨折 ② （コーレス骨折整復法，固定法を除く）
19	手根骨骨折 ①
20	手根骨骨折 ②
21	中手骨骨折 ①
22	中手骨骨折 ②
23	指骨骨折 ①
24	指骨骨折 ②
25	頭部，顔面部の骨折 復習
26	脊椎の骨折 復習
27	上腕骨骨折 復習
28	前腕骨骨折 復習
29	手根骨、中手骨、指骨骨折 復習
30	試験解説、後期復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅴ ）

学科名 スポーツ柔整科

学 年 3 年

1 授業の内容

柔道整復学の総論および下肢骨折の各論を復習し、臨床的に重要な知識を学習する。
担当教員の実務経験を具体例として挙げて説明し、臨床力の基礎を理解させる。

2 到達目標

総論の内容は、各損傷を理解するうえで礎となるものである。したがって、総論を詳細にわたる範囲で学びなおし、理解度を深めることを目標とする。

3 授業の方法

演習問題を解きながら、復習を行っていく。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業の復習により長期記憶に置き換わるため教科書を反復学習し、わからない部分を無くしていくことを推奨する。

7 使用教材，教具

全国柔道整復師学校協会監修 「柔道整復学・理論編」（改定第7版）南江堂

8 学生へのメッセージ

国家試験合格も視野に入れ、自己の学習状況を常に分析し、学習計画をきちんと立て、それに沿った自己学習を心がけてください。

9 教員氏名（ 梅崎 航 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所において施術者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅴ ）

回数	授業内容
1	損傷時に加わる力、痛みの基礎
2	骨の損傷 ① 分類
3	骨の損傷 ② 症状 合併症
4	骨の損傷 ③ 小児骨折 高齢者骨折
5	骨の損傷 ④ 癒合日数 治癒経過 予後
6	関節損傷 ① 概説 分類
7	関節損傷 ② 損傷組織 類症
8	関節損傷 ③ 脱臼
9	筋損傷
10	腱損傷
11	末梢神経損傷
12	診察 ① 注意点 概説 時期による分類 治療計画作成
13	診察 ② 施術録の扱いと記載の実際
15	まとめ復習
14	試験解説、前期復習
16	治療法 ①
17	治療法 ②
18	骨盤骨骨折 ①
19	骨盤骨骨折 ②
20	大腿骨骨折 ①
21	大腿骨骨折 ②
22	膝蓋骨骨折、下腿骨骨折 ①
23	下腿骨骨折 ②
24	下腿骨遠位端部骨折、足関節脱臼骨折 ①
25	下腿骨遠位端部骨折、足関節脱臼骨折 ②
26	足根骨骨折 ①
27	足根骨骨折 ②
28	中足骨骨折、趾骨骨折
29	まとめ復習
30	試験解説、後期復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅵ：物理療法機器の取扱い ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

・国家試験に対応できる専門的知識と柔道整復師の業務である後療法に用いられる物理的エネルギーの取り扱いを学ぶ。臨床経験を活かし、物理療法を行うにあたり、具体的な生体反応などを学ぶ。物理療法によってどのように治癒の促進がなされていくかを学ぶ。

2 到達目標

・柔道整復師に必要な物理的原理を理解する。安全な各種物理療法機器の取り扱いを習得する。外傷に対し、適切な危機を選択・設定できるようにする。

3 授業の方法

・教科書を中心とした講義や実技。及び各項目終了後に課題を行う。

4 成績評価方法・基準

・定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

・質問への返答、課題に対する理解度

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

・事前に教科書の予習、直後の復習により知識が定着する。さらに教科書以外の参考書で学習する事によりさらに理解が深まる。

7 使用教材，教具

・全国柔道整復師学校協会監修 「柔道整復学・理論編」（改定第7版）南江堂

8 学生へのメッセージ

柔道整復師の業務を理解し、物理療法機器の使用方法、禁忌をしっかりと理解できるように、なっていただきたい。

9 教員氏名（ 久野 貴史 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有：柔道整復師施術所で施術管理者として 19 年の実務経験あり。）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅵ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	物理療法の分類
3	物理療法の説明と同意
4	物理療法の禁忌
5	物理療法施行時の患者体位や患肢の肢位
6	物理療法の刺激強度
7	物理療法の変更
8	物理療法の指導管理
9	物理療法機器の安全対策
10	電気療法（低周波電気刺激療法）
11	電気療法（中周波電流療法）
12	変換熱療法（超音波療法）
13	伝導熱療法（ホットパック療法）
14	まとめ復習
15	試験解説、前期復習
16	伝導熱療法（パラフィン浴療法・水治療法）
17	輻射熱療法
18	変換熱療法（超短波療法）
19	変換熱療法（極超短波療法）
20	変換熱療法（超音波療法）
21	光線療法
22	寒冷療法（伝導冷却法）
23	寒冷療法（対流冷却法）
24	寒冷療法（気化冷却法）
25	牽引療法（頸椎介達牽引）
26	牽引療法（腰椎介達牽引）
27	間欠的圧迫法
28	まとめ復習（１）
29	まとめ復習（２）
30	試験解説、後期復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅶ ）

柔道整復術の臨床的判定・医用画像

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

・骨折、脱臼、捻挫などの外傷に対して、柔道整復師として適切な臨床診断と画像診断（特に超音波画像）を組み合わせ、施術適応かどうかを判断する能力を養うため、実務経験を基にして、実践的能力を身に着ける。

・柔道整復師に不可欠な教養の要素である当該科目を、後期末に実施する「卒業試験」の評価と連動する。

2 到達目標

・柔道整復師の業務で患者を危険にさらさないため、臨床所見と画像初検の整合性を学び、判断能力を養い、医科との連携を学ぶ。

3 授業の方法

・教科書、画像資料を用いた授業を行う。

4 成績評価方法・基準

・定期試験 50%

・卒業試験 50%

5 評価の際の特記事項

・特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

・授業進度計画に沿って教科書の予習・復習を行うこと。

7 使用教材，教具

・全国柔道整復協会監修「施術の適応と医用画像の理解」南江堂

8 学生へのメッセージ

・柔道整復師として働くために必要不可欠な知識であり、卒業判定の科目ともなっている
ので、より理解を深めていただきたい。

9 教員氏名（ 久野 貴史 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所で施術管理者として 19 年の実務経験あり。）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅶ ）

回数	授業内容
1	柔道整復術の適否
2	損傷に類似する症状を示す疾患 1
3	損傷に類似する症状を示す疾患 2
4	血流障害を伴う損傷
5	末梢神経損傷を伴う損傷
6	脱臼骨折
7	外出血を伴う損傷 1
8	外出血を伴う損傷 2
9	外出血を伴う損傷 3
10	病的骨折および脱臼
11	意識障害を伴う損傷
12	脊髄症状のある損傷 1
13	脊髄症状のある損傷 2
14	まとめ復習
15	試験解説、前期復習
16	呼吸運動障害を伴う損傷
17	内臓損傷の合併が疑われる損傷
18	高エネルギー外傷
19	医用画像とは、放射線の概要
20	主要な部位の一般撮影法
21	画像のデジタル化
22	CT の概要
23	CT 撮影の実際
24	MRI の概要
25	MR 検査の手順
26	超音波画像装置の概要
27	運動器系の画像
28	臨床画像の実際
29	まとめ復習
30	試験解説、後期復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅷ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

柔道整復師が臨床上接することの多い各種軟部組織損傷の詳細な内容を学習する。
担当教員の臨床経験をもとに、各損傷の初期処置から施術法についての基礎力を身につける。

2 到達目標

2年次に学習した内容を振り返り、さらに詳細な臨床症状、治療法、後療法の理論を学習し、習得する。

3 授業の方法

教科書の内容を中心に、PCプロジェクターを使用したパワーポイントによる講義。
パワーポイントの内容については資料を配布し、講義内容の補助とする。必要に応じて板書を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業前に予め教科書を読んでおくこと。復習は、その日のうちに学習した内容をもう一度見直し、不明な点を不明なままにしないようにする。

7 使用教材，教具

全国柔道整復師学校協会監修 「柔道整復学・理論編」（改定第7版）南江堂

8 学生へのメッセージ

柔道整復術を体得するためには、外傷の基礎をしっかりと習得することです。
理論を理解することで施術の技術習得に繋がるので、積極的に学習してください。
国家試験合格も視野に入れ、自己学習に活かせるように授業に取り組みましょう。

9 教員氏名（ 本田 光太郎 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所において施術者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅷ ）

回数	授業内容
1	頭部、顔面部の軟部組織損傷 ①
2	頭部、顔面部の軟部組織損傷 ②
3	頸部の軟部組織損傷
4	胸・背部、腰部の軟部組織損傷
5	肩関節部の軟部組織損傷
6	上腕部の軟部組織損傷
7	肘関節部の軟部組織損傷
8	前腕部の軟部組織損傷 ①
9	前腕部の軟部組織損傷 ②
10	手関節の軟部組織損傷 ①
11	手関節の軟部組織損傷 ②
12	手部・指部の軟部組織損傷 ①
13	手部・指部の軟部組織損傷 ②
14	まとめ復習
15	試験解説、前期復習
16	股関節の軟部組織損傷
17	大腿部の軟部組織損傷
18	膝関節部の軟部組織損傷 ①
19	膝関節部の軟部組織損傷 ②
20	膝関節部の軟部組織損傷 ③
21	下腿部の軟部組織損傷 ①
22	下腿部の軟部組織損傷 ②
23	足関節部の軟部組織損傷 ①
24	足関節部の軟部組織損傷 ②
25	足・趾部の軟部組織損傷 ①
26	足・趾部の軟部組織損傷 ②
27	軟部組織損傷の徒手検査法 ①
28	軟部組織損傷の徒手検査法 ②
29	まとめ復習
30	試験解説、前期復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅸ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

柔道整復術を臨床的に実践するための指導管理及び外傷予防を，シミュレーションを交えながら，教員の実務経験で培った臨床力を授業進行に合わせ盛り込みながら実施する。

2 到達目標

すでに学んだ各損傷の理論を，実際に施術に活かせるように，その指導管理及び外傷予防について，更なる理解力を身につける事を目標とする。

3 授業の方法

資料配布後，スライドを中心に講義を行う。

授業内容に沿った過去問題を解き、解説する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

復習を徹底して実施し，自己の理解度を分析し，学習方法を確立していく。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）南江堂

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・実技編」（改訂第2版）南江堂

8 学生へのメッセージ

柔道整復師は治療だけでなく，その後の管理や外傷予防も大切です。

国家試験合格も視野に入れた，自己学習に活かせるように，授業に集中しましょう。

9 教員氏名（ 川嶋 奈々美 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所にて施術者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅸ ）

回数	授業内容
1	指導管理 ― 患者とその環境の把握
2	指導管理 ― 患者の環境に対する指導管理
3	日常生活動作，環境の指導管理 ― 臥床時の体位，患肢保持
4	姿勢や肢位の指導管理
5	歩行の指導管理
6	衣服，食事動作，入浴，清潔保持・保清，トイレの指導管理
7	体調把握の指導管理
8	施術所外でできる運動の指導管理
9	住宅環境に対する指導管理 ― 部屋，寝具，家具，トイレ様式，浴室の指導管理
10	就労環境，就学環境，スポーツ活動に対する指導管理
11	就労環境の指導管理
12	就学環境，スポーツ活動の指導管理
13	自己管理に対する指導
14	まとめ復習
15	試験解説、前期の復習
16	外傷予防概論
17	外傷予防 ― 第一段階
18	運動機能向上と教育活動
19	身体の基礎的状态の評価と対応 ― 健康と体調管理
20	健康と体調管理 ― 年齢，性別，既往歴・現病歴・家族歴
21	健康と体調管理 ― 体組成，バイタルサイン，栄養状態，睡眠状態
22	健康と体調管理 ― 体格・体型，体位・姿勢，四肢の形態
23	身体とそれに伴う状態 ― 基礎体力，関節可動域と柔軟性
24	付帯する環境要因の評価と対応
25	外傷予防啓発などの教育活動
26	メンタルヘルスを保つ活動
27	特異的予防 ― 発生機序の評価と対応
28	第二段階：早期発見，早期治療 第三段階
29	まとめ復習
30	試験解説、後期の復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅷ ）

学科名 スポーツ柔整科
学 年 3 年

1 授業の内容

外傷の各論から抜粋し、各損傷の発生機序、臨床症状、固有症状、鑑別法を確認し、
整復法・固定法、応急処置法を実践し、技術を体得する。
担当教員の実務経験を具体例として挙げて、理解させ、臨床力の基礎を学ばせる。

2 到達目標

各損傷の評価法を通して、実際の施術はもとより、合併症なども視野に入れた、応急
手当の方法を体得することを目標とする。

3 授業の方法

ロールプレイを中心に実施する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

各外傷の発生機序や臨床症状をしっかりと頭に入れた状態で実技に臨むことができる
よう、予習を重点におき自己学習を行っていくことが不可欠である。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）南江堂
全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・実技編」（改訂第2版）南江堂

8 学生へのメッセージ

- ・理解の足りない個所があれば、いつでも質問するように心がけてください。
- ・実習着は常に清潔を心掛けてください。爪は短くし、装飾品（指輪、ピアスなど）は
全て外してください。女子は髪を後ろにまとめるようにしてください。

9 教員氏名（ 梅崎 航 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所において施術者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 柔道整復実技Ⅷ ）

回数	授業内容
1	鎖骨定形の骨折①
2	鎖骨定形の骨折②
3	鎖骨定形の骨折③
4	上腕骨外科頸外転型骨折①
5	上腕骨外科頸外転型骨折②
6	上腕骨外科頸外転型骨折③
7	肩鎖関節上方脱臼①
8	肩鎖関節上方脱臼②
9	肩関節前方烏口下脱臼①
10	肩関節前方烏口下脱臼②
11	肩関節前方烏口下脱臼③
12	肘関節後方脱臼①
13	肘関節後方脱臼②
14	肘関節後方脱臼③
15	試験解説、まとめ復習
16	コーレス骨折①
17	コーレス骨折②
18	コーレス骨折③
19	第5中手骨頸部骨折①
20	第5中手骨頸部骨折②
21	第2中手指節関節背側脱臼①
22	第2中手指節関節背側脱臼①
23	肋骨骨折①
24	肋骨骨折②
25	下腿骨幹部骨折
26	上肢骨折の復習①
27	上肢骨折の復習②
28	上肢脱臼の復習①
29	上肢脱臼の復習②
30	試験解説、まとめ復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅸ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

・軟部組織損傷について理解し、実際の施術方法を実技で学ぶ。担当教員の実務経験で培った知識、臨床経験を活かし、具体例を挙げて理解力を深める。

2 到達目標

・各損傷の発生機序と臨床症状を理解し、その診察法の手順、検査法の実際を実技実習において、基礎的手法を身につけることを目標とする。

3 授業の方法

・ロールプレイを基本として実施する。

4 成績評価方法・基準

・定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

・特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）

・授業進行計画を参考に、事前に予習をする。実習で学んだ実技内容を必ず復習する時間をつくること。繰り返しの実技演習が技術を修得す上で重要なことを認識すること。

7 使用教材、教具

・全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・実技編」（改定第2版）南江堂
・配布資料

8 学生へのメッセージ

・国家試験受験、認定実技審査受験も視野に入れ、診察法、検査法、固定法（初期処置）の基礎技術を身に付けましょう。ロールプレイングを通し、臨床力を身に付けましょう。

9 教員氏名（ 久野 貴史 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有： 柔道整復師施術所で施術管理者として 19 年の実務経験あり。）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 柔道整復実技Ⅸ ）

回数	授業内容
1	肩関節軟部組織損傷 ― 肩腱板損傷① ― 診察法、検査法
2	肩関節軟部組織損傷 ― 肩腱板損傷② ― 診察法、検査法
3	肩関節軟部組織損傷 ― 上腕二頭筋長頭腱損傷① ― 診察法、検査法
4	肩関節軟部組織損傷 ― 上腕二頭筋長頭腱損傷② ― 診察法、検査法
5	大腿部軟部組織損傷 ― ハムストリングス肉ばなれ損傷① 診察法、検査法
6	大腿部軟部組織損傷 ― ハムストリングス肉ばなれ損傷② 診察法、検査法
7	大腿部軟部組織損傷 ― 大腿四頭筋打撲損傷① ― 診察法、検査法
8	大腿部軟部組織損傷 ― 大腿四頭筋打撲損傷② ― 診察法、検査法
9	膝関節部軟部組織損傷 ― 側副靱帯損傷① ― 診察法、検査法
10	膝関節部軟部組織損傷 ― 側副靱帯損傷② ― 診察法、検査法
11	膝関節部軟部組織損傷 ― 十字靱帯損傷① ― 診察法、検査法
12	膝関節部軟部組織損傷 ― 十字靱帯損傷② ― 診察法、検査法
13	膝関節部軟部組織損傷 ― 半月板損傷① ― 診察法、検査法
14	膝関節部軟部組織損傷 ― 半月板損傷② ― 診察法、検査法
15	試験解説、前期復習
16	下腿部軟部組織損傷 ― 下腿三頭筋肉ばなれ損傷① ― 診察法、検査法
17	下腿部軟部組織損傷 ― 下腿三頭筋肉ばなれ損傷② ― 診察法、検査法
18	足関節軟部組織損傷 ― 外側靱帯損傷① ― 診察法、検査法
19	足関節軟部組織損傷 ― 外側靱帯損傷② ― 診察法、検査法
20	下腿骨骨幹部骨折 ― クラメル副子固定法①
21	下腿骨骨幹部骨折 ― クラメル副子固定法②
22	アキレス腱断裂 ― クラメル副子固定法①
23	アキレス腱断裂 ― クラメル副子固定法②
24	足関節外側靱帯損傷 ― 局所副子固定法
25	膝関節内側側副靱帯損傷 ― Xサポートテープ固定法
26	足関節外側靱帯損傷 ― バスケットウィーブテープ固定法
27	足関節外側靱帯損傷 ― フィギュアエイト・ヒールロックテープ固定法
28	まとめ復習①
29	まとめ復習②
30	試験解説、後期復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅹ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

柔道整復の施術の基礎を学び、実践しながら、臨床への対応を理解する。
柔道整復師の日常業務である療養費の取扱いについても学ぶ。

2 到達目標

柔道整復施術の手順を、ロールプレイを通して体感し、理論に一致しているか確認しながら実技を修得することで、臨床の現場で対応できる基礎作りと、併せて、法令の遵守が確実に実践できることを目標とする。

3 授業の方法

ロールプレイを基本とする。

4 成績評価方法・基準

実技試験 80% 授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

授業態度は、出席率、積極性なども評価に加味する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

その日に実施した内容を、その日のうちに再度シミュレーションし、復習する。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）南江堂

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・実技編」（改訂第2版）南江堂

全国柔道整復学校協会監修 「社会保障制度と柔道整復師の職業倫理」医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

実際の臨床現場と思い、真剣に取り組んでください。

9 教員氏名（ 中野 仁 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所で施術管理者として20年の実務経験あり。）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 柔道整復実技X ）

回数	授業内容
1	診察法の実際
2	問診、視診、触診の方法
3	医療コミュニケーションの実際
4	機能的診察
5	鑑別診断～説明と同意
6	徒手整復、固定法、整復・固定後の確認
7	医科との連携～後療法
8	経過
9	物理療法、手技療法、運動療法
10	治療の判定
11	診察
12	治療法 — 整復法
13	治療法 — 固定法
14	治療法 — 後療法
15	試験解説
16	医療面接の実際① — 問診 ロールプレイ
17	医療面接の実際② — 問診、視診 ロールプレイ
18	医療面接の実際③ — 問診、視診 ロールプレイ
19	医療面接の実際④ — 問診、視診、触診 ロールプレイ
20	医療面接の実際⑤ — 問診、視診、触診 ロールプレイ
21	医療面接の実際⑥ — 問診、視診、触診、検査法 ロールプレイ
22	医療面接の実際⑦ — 問診、視診、触診、検査法 ロールプレイ
23	医療面接の実際⑧ — ロールプレイ 施術録の記載
24	医療面接の実際⑨ — ロールプレイ 施術録の記載
25	医療面接の実際⑩ — ロールプレイ 療養費の請求方法
26	医療面接の実際⑪ — ロールプレイ 療養費の請求方法
27	医療面接の実際⑫ — ロールプレイ
28	医療面接の実際⑬ — ロールプレイ
29	医療面接の実際⑭ — ロールプレイ
30	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅺ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

各損傷の応急手当の手順を、実技実習において学ぶ。

担当教員の実務経験を活かし、臨床力の基礎となる処置法を実践していく。

2 到達目標

各損傷の評価法を通して、実際の施術はもとより、合併症なども視野に入れた応急手当の方法を体得すことを目標とする。

3 授業の方法

ロールプレイを中心に実施し、必要に応じて資料を配布する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

各外傷の発生機序や臨床症状をしっかりと頭に入れた状態で、実技に臨んでもらいたいので、予習を重点に自己学習を欠かさないでほしい。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）南江堂

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・実技編」（改訂第2版）南江堂

8 学生へのメッセージ

- ・理解の足りない個所があれば、いつでも質問するように心がけてください。
- ・実習着は常に清潔を心がけてください。爪は短くし、装飾品（指輪・ピアスなど）は全て外してください。女子は髪を後ろにまとめるようにしてください。
- ・実際の臨床現場で実践できるように、しっかり学びましょう。

9 教員氏名（ 本田 光太郎 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所において施術者としての実務経験あり。 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 柔道整復実技Ⅺ ）

回数	授業内容
1	頭部，顔面部の損傷
2	頸部の損傷
3	胸・背部の損傷
4	腰部の損傷
5	鎖骨部の損傷
6	肩関節部の損傷①
7	肩関節部の損傷②
8	上腕部の損傷
9	肘関節部の損傷
10	前腕部の損傷①
11	前腕部の損傷②
12	手関節部の損傷
13	手・指部の損傷①
14	手・指部の損傷②
15	試験解説、前期復習
16	骨盤部の損傷
17	股関節部の損傷
18	大腿部の損傷
19	膝関節部の損傷①
20	膝関節部の損傷②
21	下腿部の損傷
22	足関節部の損傷
23	足・足趾部の損傷
24	上肢骨折の復習①
25	上肢骨折の復習②
26	下肢骨折の復習①
27	下肢骨折の復習②
28	上肢脱臼の復習①
29	上肢脱臼の復習②
30	試験解説、後期復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床実習Ⅳ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

臨床実習施設において、見学実習（一部参加型）を主体とした臨床実習を行う。

2 到達目標

- ・臨床現場における適切な行動・態度、そして責任感を修得することを目標とする。
- ・施術および施術所の運営など、一連の業務内容を理解して柔道整復師としての基本的姿勢を身に付ける。

3 授業の方法

- ・各臨床実習施設の臨床実習指導者の指示のもと、臨床現場に即した行動を実践する。
- ・実際の施術の現場や、関連する仕事の様子を見学する。
- ・臨床実習は異なる施設で実施される。臨床実習施設へは各自が公的交通手段を利用し、決められた開始時間の20分前には施設に到着し、10分前には着替えを終了しなければならない。

4 成績評価方法・基準

出席、実習記録、レポート等の提出物、各指導者による評価を総合して最終評価とする。

5 評価の際の特記事項

毎回のレポート提出は評価の基準となる。

6 授業時間外学習

日々、臨床実習に必要な基礎知識（専門基礎科目、専門科目）を学習する。

7 使用教材、教具

「実習の手引き」

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編 第7版」南江堂

8 学生へのメッセージ

- ・資格取得後、就職先で実務を実践することを念頭に置いて体験、学習しましょう。
- ・時間厳守、コンプライアンスを実践し、自己責任を持って行動してください。

9 教員氏名（ 担当教員：川嶋 奈々美 実習調整者：中野 仁 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復施術所での施術者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

実務経験を有する教員が臨床実習調整者となり、臨床実習指導者が現地で担当する。
臨床実習指導者は、「柔道整復師専科教員」の有資格者、または、「臨床実習指導者講習会」受講修了者に限る。

1 1 科目名 (臨床実習Ⅳ)

回数	
	8月、9月中の期間で、5日～7日間（45時間）の臨床実習を行う。